

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成8年3月7日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 辻田 実
3 番 三上 英男
5 番 忍足 利彦
7 番 齊藤 実
9 番 島田 保
11 番 秋山 光章
13 番 脇田 安保
15 番 山崎 雅己
17 番 岩村 勝弘
19 番 川名 正二
21 番 山中金治郎
23 番 石井 昌治
25 番 飯田 義男

2 番 本橋 亮一
4 番 小幡 一宏
6 番 鈴木 順子
8 番 増田 基彦
10 番 宮沢 治海
12 番 植木 馨
14 番 永井 龍平
16 番 鈴木 忠夫
18 番 日下 君敏
20 番 神田 守隆
22 番 榎本 春光
24 番 福原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚
収 入 役 川上 義雄
総 務 部 長 神子 純一
経 済 環 境 部 長 小沼 晃
水 道 課 長 谷貝 実

農業委員会会長
職務代理者 黒川市之助

助 役 小幡 清之
企 画 部 長 永野 修
市 民 福 祉 部 長 渡辺 富雄
建 設 部 長 三平 孝司
教 育 委 員 会 長 高橋 博夫
教 育 局 長

農 業 委 員 会 長
事 務 局 長 佐久間 宏

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一
書 記 四ノ宮 朗

事 務 局 長 補 佐 鈴木 哲
書 記 安田 仁一

1 議事日程（第2号）

平成8年3月7日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議長の報告

◎議長（辻田 実君） この際申し上げます。

本日の会議の説明員として、黒川農業委員会会長職務代理者が出席する旨報告がありました。

行政一般通告質問

◎議長（辻田 実君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月4日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあらうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） おはようございます。私は、既に通告をしてござい

ます2点について質問をしてみたいです。

私の質問は、庄司市長より本定例会初日に出されました平成8年度施政方針によりまして、その中から教育について、また高齢者福祉について伺ってまいりたいと存じます。

まず、教育行政について伺いますが、施政方針によりますと、学校教育については、自主的精神に満ちた心身ともに健康な児童生徒を育成し、個性と能力に応じた教育を受けられるよう、教育環境の整備を推進しているところであると述べていらっしゃいます。私たちの耳にゆとりある教育を目指してという声が聞こえ出しましてから大分年月がたつように思いますが、教育現場の声として、たびたび私どものこの議会にも、実際にはゆとりある教育なんていう実態ではないんだという意味の意見書の請願が出されておることは御承知のとおりでございます。私も機会あるごとに申してきておるわけですが、教育現場における教育環境の悪化がさまざまな問題を引き起こしているのではないかと感じております。そんな教育の場で、御承知のとおり、近年いじめの問題が大変多く出され、いじめによる死を選択する児童生徒がふえていることについては、だれもが胸を痛めておるところであります。

私たちにいじめという言葉が耳に入ってくるようになったころは、それはいじめではなく、単なる悪ふざけだ、いや、いたずらやけんかであるという学校や教育委員会などの主張でありました。1960年に起きた――中野富士見中学校で起きた問題ですが、いわゆる葬式ごっこと言われた件につきましても、当初東京地裁の判決は、悪ふざけ、いたずら、偶発的けんかと見る方が適切であると、被害者のいじめであるとの訴えを退けました。後に高裁では、自分を死者になぞらえた行為に直面させられた当人の側からすれば、精神的に大きな衝撃を受けなかったはずはないとして、被害者の認識、感情を考慮するとの点を明確にしたことは御承知のとおりであります。

また、最近社会学者の方が提起をされたいじめの特徴といたしまして、加害者、観衆、傍観者、被害者の4層構造論は、いじめ問題を考える出発点として重要であり、また世論の風潮として、加害生徒への厳罰論の問題性を理解する上でも欠かせないということでもあります。

近年、いじめによる命や人権を重く見た日本弁護士連合会が、学校に子供の人権をと、いじめ問題について、1985年より10年間に及ぶ体験、実践の到達点と反省を踏まえて、弁護士の立場からこのいじめについて、具体的な救済のあり方やその留意点などに焦点を当てながら検討を加えた結果を発表されました。これは、現在いじめに苦しんでいる子供やその親だけではなく、教師や教育関係者、市民にも広く役立つことを願っての発表であるとのことでした。この結果は多くの場所で今参考とされているとお聞きをしています。

いじめは、クラス、クラブ、友人集団など、学校を舞台に発生をしていると言われておりますが、今教育現場はもとより、多くの団体、行政などによりまして、いじめ問題の背景やいじめの根絶の有効な手段についてやっと議論が歩み出したところだろうと認識をしております。連日のようにさまざまな場所で関係者による話し合い、集会などが行われている現状であるようですが、千葉県においても関連の事業が8年度に行われるということをお聞きしております。

そういう状況の中で、館山市内の各学校でのいじめに対する状況はいかがなものでしょうか、お伺いをいたします。また、県ではいじめ対策事業として、予算計上を今したと聞いておりますが、市町村への対策として、関連事業が館山市でも行われるのでしょうか、お伺いをいたします。また、館山市には平成7年度より市内1校に対しまして、いじめ対策としてスクールカウンセラーを配置したとお聞きをしていますが、その後の成果はいかがでしょうか、お伺いをいたします。

いじめ問題とも密接な関係があります学習指導要領について次に伺ってまいります。御存じのとおり、昨年12月議会におきまして、私の所属いたします文教民生委員会で大変議論をされてまいりました見直しを求める意見書が採択をされました。県議会におきましても、国に強く働きかけるようにとの要請が再三されたと伺っております。

私もたびたびこの場におきまして訴えてまいりましたが、教育現場では、子供たちも教師もいつも何かに追われながら日々過ごしており、教師と子供

たちがゆっくりと向き合って話し合えるような状況では全くないと聞いております。学校週5日制の問題にいたしましても、完全実施の声が高くなっておりますが、休みがふえる分だけ詰め込み教育がされているのが現状ではないでしょうか。文部省もさまざまな方法でこの問題につきまして研究していることは承知をしておりますが、指導要領の改正がされない限り、ゆとりある教育や個性を伸ばす教育などとてもできないことは明白であります。私は、庄司市長の言う自主的精神に満ちた心身ともに健康な児童生徒の育成も、個性と能力に応じた教育を受けることも、指導要領の改正がされなければ不可能であると思うところでございます。現場で働いてきた経験のある市長、教育長でありますので、この指導要領についてどのように現在お考えになっておりますでしょうか、お伺いをいたしたいと思います。

次に、高齢者福祉について伺ってまいります。平成8年度は老人保健福祉計画の見直しがされることは施政方針の中でも明らかでございますが、将来を見据えての見直しであるわけですから、現在市が行っているデイサービスや機能訓練の各事業についての肉づけをどう行っていくのか伺ってまいります。

デイサービスが現在非常に要望が多いということは、再三この場の議論で明らかになっております。デイサービスが利用者や家族にとってどんなにか役に立っているのかのあらわれではないかと思えます。これから利用要望者がふえてくることと思えます。そういう状況の中で、大変なことであることは承知をしておりますが、やはり利用回数をふやしていくことを要望してやまないのであります。以前の市長答弁では、民間施設などで対応していきたいとのことでしたが、回数をふやしていくことの見通しが立っているのかどうか、お伺いをいたしたいと思えます。

続いて、機能訓練事業の内容充実と回数の増についての見通しを伺います。この件につきましても、回数の増は考えていないとの答弁がございました。しかし、今あおぞらという名称で呼ばれている機能訓練事業につきましては、多くの利用者に喜ばれております。また、利用者の具体的な精神面あるいは身体面での回復が評価をされております。保健婦さんの助言でどれだけ助か

ったかわからない状況もあります。そういう事業ですが、医師の協力を得ながら、さらに機能回復訓練への充実ができないものかどうか伺います。

リハビリ専門の医師が現在年4回診察をされておりますが、さらに毎回の利用に機能回復のための医師の協力ができないものかどうか、また今後回数は将来的にはふやしていられるのかどうか、改めて伺いをいたしたいと思っております。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の教育行政につきましては、1、2とも教育長より御答弁申し上げます。

大きな第2の高齢者福祉についてお答えいたします。第1点目、デイサービスの回数増についての御質問でございますが、デイサービスセンターの設置につきましては、館山市老人保健福祉計画に基づきまして、施設整備費の助成等によりまして、民間老人福祉施設の誘致を推進してまいりたいと考えております。

第2点目、機能訓練事業の内容充実についての御質問でございますが、館山市の集団リハビリテーション事業は、参加者間の交流を通じて社会性の拡大、日常生活の自立を目的といたしまして、平成5年度から実施しております。また、平成7年度には新たに事業を加え、さらに平成8年度には家族を対象といたしました交流事業を実施する予定でございます。

なお、身体的な機能回復訓練につきましては、これは医療分野のため、館山市の集団リハビリテーション事業では行うことができません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第1、教育行政についての第1点目、いじめの問題についての御質問でございますが、市内小中学校における今年度現

在までは6件のいじめが報告されております。いずれも深刻な状況に至らず、本人の努力、家庭と学校の連携により解決されております。

次に、県での対応でございますが、いじめ相談児童生徒専用フリーダイヤルの実施など、いじめ対策事業として6項目を挙げ、その推進に努めるとしております。館山市におきましても、いじめの総点検、命を大切にするキャンペーンを実施し、学校の体制の強化と児童生徒理解に努めてまいりましたが、今後も県との連携を密にし、家庭、地域との連携を深める中で、いじめのない学校を目指し、努力してまいりたいと考えております。

次に、スクールカウンセラー導入についてでございますが、県内に11名、そのうち1名が第一中学校に配置されております。スクールカウンセラーの配置により、生徒理解の機運が高まり、生徒、教師、カウンセラー、保護者間のコミュニケーションが深まり、望ましい方向に進んでいると考えております。

次に、第2点目、学習指導要領についての御質問でございますが、現在中央教育審議会におきまして、「生きる力とゆとり」へ向け、新学習指導要領の骨子づくりが行われており、改定へ向けた作業が進められているところでございます。

なお、館山市におきましても、さきの議会で学習指導要領の抜本的見直しを求める請願書が採択されまして、関係諸機関へ提出したところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） では、再質問をさせていただきます。

いじめ問題についてなんですけれども、まず市内の状況といたしましては、6件が報告をされているということでもあります。どのように解決をされたかということにつきましては、人権問題もありますので、余り深くお尋ねすることはできないかと思いますが、ただその解決の方法につきましても、若干の要望といたしまして、本当に上辺だけの——よく言われておりますように、上辺だけの解決にはなっていないだろうと私は思っておりますが、それを要

望してやまないというふうに思いますので、今後につきましても、そういう解決に向けましては特段の御努力をお願いをしていきたいというふうに思っております。

そして、県の方の予算化に対しましての関連事業といたしまして、既に館山市では、平成7年度の4月より、今答弁がございましたように、スクールカウンセラーの配置が一中にされております。県内11校中の1校であったということで、8年度の予算計上の折に、8年度の4月1日からさらに11名ふやして、総勢22名の配置であるというふうにお聞きをしているところなんです、どう考えましても――1年間やってみて、教育長の感触ですと、生徒間あるいは教師、保護者の間の理解が進んでいるというふうなことです、県内のこれだけの小中高という学校の数を考えた場合、本当に22名で――ないよりはあった方がいいんですけれども、非常に少ないなというふうに思っております。

さまざまな関連事業があるわけなんです、館山市でも、新聞報道などにありますように、教育指導員でありますとか、さまざまな方々が本当に真剣に話し合いをされているというふうなこともお聞きをしておりますが、私自身もそうなんですけれども、非常にこのいじめに関しては社会的な背景もあるものですから、私の育った時代と今の社会の中で育っている子供たちとの社会的背景が全然違うものですから、私の時代はこうだったから、今の子にそれが通用するかというと、そうはならないわけであります。それをどういうふうにしていったらいいかなというのは、多分頭を悩ませていることはそうなんだろうなというふうに思います。私自身も、例えば近所の子供たちがちょっと目に余るようなことをしていても、注意をするというようなことが私の子供時代にはあったわけなんです、どうも今はしにくいというような状況が率直に言っているわけです。

そういった背景の中で、どうやってこれから市の方でそういう――あるいはキャンペーンをまた続けていかれるんだろうと思いますが、どういったことを具体的にやろうとなさっているのか、お聞かせを願いたいというふうに思います。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 議員さんのおっしゃること、大変ありがたく受けとめさせていただきたいと思うわけでございます。

御質問の中でもって、解決するのには大変努力が必要であるということはお説のとおりでございます。現在、いろいろな状況の中で、各現場、それから関係機関とも連絡をとりながら実施しておることでございますけれども、いじめの問題はそうたやすく解決できるというのではなく、私どもも深くそれを認める中で、何か対応策をとということで、常に考えて進まなければならない問題ではないかと心しており、また教育行政の中におきましても、そういう方策も考えていかなければいけない。まさに地域に即した方策というものもいろいろな方々の御意見を伺って立てていきたい、こう考えておるようなわけでございます。

さて、今御質問の中で、県下11名のスクールカウンセラーが昨年度より実施されたわけでございまして、御答弁申し上げましたとおり、大変その利用促進というようなものが——効果性といいますか、それが大変顕著に出ているということが第一中学校の実践報告を聞いた中でうかがえるわけでございます。その大きな出来事は、やはり専門家がそういう子供たちのカウンセラーに当たり、また教師がその中に入ることにより、その技術を学ぶ取る、またそのときにいろいろな対応の方法というようなものを学ぶ取るということで、教師の間に大きな刺激がもたらされたということが大きく言えると思います。刺激が多ければ、その反応というようなものも教科に出てくるわけでございますので、採用されたということは、学校教育現場の上に大きく評価されるものと考えております。

次に、県下の状況でございますけれども、御承知のとおり、現在11名、8年度の生徒指導関係のいじめの問題につきましては6項目ということでありまして、その第1番目に、スクールカウンセラーが11名さらに配置されますけれども、このスクールカウンセラーが大変制度的に条件が難しいということでございまして、たやすくそのスクールカウンセラーを雇うということではできません。私どももそういう方を見つけるのに大変苦勞をしているという

ことでして、現在は11名、そしてプラス11名で、今後ともこの要望をさらに県の方に進めていきたい、こう考えているわけでございます。

さらに、先ほど昔と今の差によって子供への指導に困っているというようなこともありましたけれども、冒頭に議員さんおっしゃいましたように、いじめの4層構造というお話がありましたけれども、今のお話でも、御存じのとおり、やはり社会にも4層構造があるのではないかなというような気がいたします。

今後のことにつきまして、館山市にとりまして、現在はそういう各種団体が独自にそういう問題を自分たちの問題として解決策を図りつつあります。例えば、PTAの研究協議会が今回自分たちの問題として、自分たちで研究大会を先日開いたばかりでございます。それは何かというと、安全性ということで、物理的な問題もあるでしょうし、それから心情的なものもあり、身体的な問題もありますけれども、そういう社会全般の安全性について研究大会を実施したということは、これはよそにはない1つの——館山市の方々が学校教育を取り巻く諸問題を自分たちとして受けとめてくださったということだろうと思うわけでございます。

それから、次に青少年相談員、これがこの間も夜、自分たちの学習会を開いてくださいました。そして、いじめの現状やその対応や、その他取り組みについて、今後青少年相談員として、自分たちとしてどう進んでいったらいいかという自主的な方向に向いているということでございます。

さらに子供会を通じて、子供のいわゆる宿泊研修を通す中で、自分たちが中心になりましてリーダーの育成をしてくださっているということで、市といたしましては大変——そういう関係機関との連携をとりながら独自の方向にいつているということで、私としてはさらにその輪を広げていきたいな、そういうことを考えているわけでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） かなりの団体の方々が自主的にいろいろ学習会等、勉強会等を開かれているということですので、あとは——これは自主的に

やりになっているということですから、教育委員会及び教育現場に携わっている方々がどのようにそれを吸い上げていくかということが非常に大事なんだろうというふうに思います。

先ほど来スクールカウンセラーという — 専門家ですよ。ということが出されておりますが、スクールカウンセラーということを耳なれない方もいらっしゃると思います。この定義づけというんですか、もちろん専門家ですから資格があったりするわけなんでしょうけれども、こういった立場の方なんでしょうか、お聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） スクールカウンセラーというのは、一般に言われますカウンセリングをやる人が学校でカウンセリングする。言いかえるならば、教育相談活動と言ったらいと思います。教育相談活動といいますのは大変広い意味があるわけですがけれども、学習の仕方、それから生活の仕方、その他学校生活、家庭生活にまつわる、その子供の持つ、または家庭で持っている諸問題を相談をし、アドバイスをしてくださるその活動でございます。そのスクールカウンセラーというのは、現在は県に登録をしまして、それでその登録された方々が各地区の中において仕事を実施するわけでございますけれども、まずその資格でございます。資格をお取りになるためには、心理学を専攻する博士課程または修士課程を終了した後、1年以上の心理臨床経験を持っている方、または大学院等でもって修了後、2年以上の心理臨床の経験を持っている方、またお医者さんの免許を持っている方とか、大変資格が難しい段階でございます。これは専門的な方でございますので、現在この地域におきましてもそういう方々は大変少なく、病院等に配置されている方もおりますけれども、その数は非常に少のうございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） かなり専門知識を持たれた方でないとできないということで、それだけ重い職であるというふうに思っておりますが、例えば欧米なんかですと、よく言われておりますが、スクールカウンセラーが各学校

に配置されるのが当たり前である。日本のように初めてこうやって試験的に置かれるみたいな — 非常に遅いというようなことを以前何かの折にお聞きしたこともございました。こういった本当に殺伐とした社会状況の中で、こういうことが論じられなければならないというのは、非常に子供たちにとっても我々にとっても不幸なのですけれども、でもやはりこれはもっともっとふやして行ってほしいなというふうに私は率直に思うところであります。

それで、すごくこのスクールカウンセラーの配置につきまして気になっておりましたものですから、その中で1つ、気になる専門家の方の言葉がいまだに耳にあって離れないものですから、お聞きしたいことが1つございます。それは、今全国的にいろんなところでさまざまな — 本当に連日のようにいじめに対する集会であるとか勉強会が行われております。その中で、先日の — 東京都なんです、行われたその勉強会の中で、これは現場の教育関係者、現場の教師を中心に、スクールカウンセラーも入れた勉強会のようでした。その中で、スクールカウンセラーの生の声としてお聞きをしたわけなんです、現場の教師とスクールカウンセラーとの意思の疎通に時間がかかる。時間で言えば、3年はかかるというふうなことを率直に申しておりました。これを文部省の言うように急げ急げと言われましても、なかなかそうはできないのであるというようなことが言われておりましたのが非常に今も気持ちの中に残っているんですけれども、我々がいろんな職場に — 普通の人たちが、教員じゃなくても、いろんな職場に行くについても、その職場になれるのにさえ時間がかかります。それをまたいろんな悩みを持っているであろう子供たち、あるいは現場の教師たちとの間を、いかに専門家とはいえ、図るわけですから — 私は成果があるというふうにお聞きをしていますから、それは率直にそうなんだろうというふうに思いますが、本当にこれから先の年数ということを考えていきますと、どうなんだろうかなというふうに思ってしまうわけなんです、その辺は具体的にどうなのでしょう。

今の答弁ですと、現場の教師の方々はその専門家のカウンセラーの方からいろんなことを学び取って、かえって刺激になっているというようなことをお聞きをしています、言葉は適切かどうかかわからないんですが、妙な縄張

り争いみたいなことになりはしないかという懸念が一方ではあるというふうに私は思うんですが、その辺はどうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 今議員さんのおっしゃっていることは、多分ここに配置されているカウンセラーもその会議に出ているんじゃないかと思えますけれども、文部省が実施した全国の方々を集めまして実施状況を聴取するという研究協議会があったやに聞いております。その席上で今のような事柄が出てきたようにも伺っております。私もテレビ等で仄聞しただけでございますので、明確なことはわかりませんが、いろいろなケースが出てきているようでございます。確かに現場を知らないで、カウンセラーという立場で学校に入ってきた。地域の差、その他もろもろのことがありますけれども、現状の館山におきます場合につきましては、先ほど私御答弁申し上げたとおりに望ましい方向に向いているということで、それを通して、今の段階といたしまして、教師の中に教育相談の研修をしていきたいというような方々がふえつつあるというのが現状でございます。現在、館山市教育委員会主催のセンターで行っております研修会の項目の中でも、教育相談に対しましては大変希望者が多いというのも現実的な問題等にかかわってくるだろうと思えますけれども、そういうようなことで、それらを考慮いたしましても、縄張り争いとか何とかという――学校の中に二極化とか三極化とかと言われるようなところは出ないで、現状としては、その方々とともに大いに活用することによって、よい成果を上げていくことの方が望ましいのではないかと、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 館山の方ではそういうことではないんだということですので、時間の都合もありますので、教育長のそのお答えを率直に受けとめていきたいというふうに思います。

先ほど来、現場の教師から教育相談の研修をしていきたいというような声が出ているというふうにお聞きをしていますが、確かに現場の教師たちもど

うしていいかわからないというのが率直な気持ちじゃないかと思うんです。とりあえず何でもやってみなきゃというのが今の状況じゃないかなというふうに思います。

私の方で、いじめにつきまして、県内で弁護士が中心になりまして、昨年のこれは12月なのだけれども、いじめ 110番というのを開設いたしまして、実施をしてきたというふうに報告を聞いております。そして、子供からの訴えが本当に大変多く寄せられたというふうに聞いております。また、この結果を分析をする中で、これを開催された弁護士さんの方々の意見として、どうやって現場で対応できるのかということが大変議論になったというふうに聞いております。余りにも忙しい現場教師の仕事量の多さ、この解消がなければ、本当にやりたくてもやれない、問題になかなか目がいけないというのが状況じゃないかというふうに指摘をしておりました。

いじめは、先ほど来言っておりますように、社会的な背景の中で起こっているということもあります。子供のときから競争社会の中で育てられている現実を考えますと、私たち大人でもそういう社会の中にいるわけですから、本当にどうしたものかと悩んでしまうのが現実なんですけれども、文部省を初め教育関係者が言っておりますように、行政も言っておりますが、本当にゆとりある教育を受けるというような環境づくりをするためには、やはり現場の教師にゆとりを持たせるような方向に持ってってもらわなければならないんじゃないかというふうに思います。それはやはり、先ほどの2番目の質問の中にありましたけれども、学習指導要領が出てくるわけなんですけれども、今の指導要領は本当に——今学校週5日制になっておりますが、休みが月2回ふえて、それが今そのままの指導で、そのまま授業をほかの時間に上乘せをするというような状況があるわけなんですけれども、そういった状況の中で、やっぱりこの指導要領の見直しをどうしてもやっていっていただかないと、なかなかいろんなところに目が向かない、ゆとりなんてとても持てないというようなことではないかというふうに思います。たまたま私はきょう新聞を見ていましたら、朝日新聞にいじめ問題が出ていまして、その中でもやっぱり言われております。

私はいつもこの場で教師、教員の問題を話すときに、教師は子供たちの人数に合わせて多いというようなことも答弁で過去にありましたけれども、率直に言って、今この時代になっていて、どうなのでしょう。率直に言って、県の方からのいわゆるこの生徒の数ではこれだけの数の先生でやってくれということを抜きにして、本当に現場で働いていた教師——教師時代本当に現場で苦労されたと思います。そういうことを踏まえた上、また今の社会背景を踏まえた上で、今の教師の数で本当にやっていけると思われるかどうか、率直にちょっとお聞かせを願いたいと思うんですが。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この場でもって何人が一番いいからこれだけ必要ですということを御即答申し上げることはなかなか難しいわけでございまして、教育の効果を考える意味からいたしまして、また教育内容の変遷の内容からいたしまして、社会の動きその他の状況から考えまして、線を引くというのはなかなか難しいわけですが、一定の集団の中でそれに見合う教師がおれば——たくさんおれば、それは一番望ましいわけでございますけれども、それにつきましても、やはりそれは教育課程を編成する中身と、それからいわゆる児童生徒の全国的な数とか、その他によりましてそれらが決定するわけでございますけれども、現状といたしましては、やはりある程度のゆとりのある学習をするためには、今議員のおっしゃるように、内容の改善、それからできれば1学級の児童生徒数のいわゆる上限というようなものを切っていただければ、一番効果が上がってくるのではないかと考えているわけでございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 時間がちょっとなくなりましたので、1つ結論だけ申し上げておきたいんですが、どう考えても、やはり今の学習指導要領は、今の状況の中で、学校現場の状況の中では合わないということは、これはもうはっきりしているわけです。いろんなところでこの審議をされておりまして、近いうちに改正をされるでしょう。ただ、そのされる中身として、やはりその現場で携わった者の声として、私たちが議会で要請をすると

いうことよりも、その方がとてもインパクトが強いわけです。そういった方向で、やはりそういった立場からの国に対しての要請をぜひこれは行っていたいただきたいというふうに思うんですが、その辺はどうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） これは、あらゆる私どもの立場からも国に対して要望をしているところでございます。なakanずく、館山市におきましては、今後の学習指導要領の改定のための1つのデータを出すために、館山第二中学校が現在、現在の教育の指導要領によらないで、独自の教育課程を組むことによって研究をしております。皆様方の御同意をいただきまして、補助金等、委託金等もいただいて現在やっているわけでして、それが国へ大きな力となって反映されていくのではないかと思います。

それから、第2点目は、館山市の今まで実践していました教育成果というものは文部省も高く評価していただきまして、学習指導法上の諸方法が幾つかその中に明示されているところもありますので、現場の実践の形として文部省の方へも出していききたい、こう考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 今独自にやっていたらというので、それは承知をしておりますが、ひずみがあるわけですから、独自にやりながらも、その分やっぱり仕事量はふえているという、非常にバランスがとれないような状況があるということをあえて指摘をしておきまして、今後また関係各方面にそういう声をぜひ上げていっていただきたいというふうに思います。

そして、デイサービスのことなんですが、これ要望が多いということは十分承知をしていると思いますが、これから本当にこの要望に対してどうこたえていくのかということ具体的を聞かせてください。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） これからの整備計画ということで、現在民間からの相談が2件ございます。その内容についてまだ発表の段階ではございませんけれども、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、民間老人福祉

施設を積極的に誘致していこうという考えであります。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 相談があるということです、それがいい方向に向かったといたしまして、ここ何年かのうちには何かの形として示されるような状況が生まれるというふうに理解をしてもよろしいのでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） そのように努力をしてみたいです。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） その件は承知をいたしました。待っている人がたくさんいるというふうに聞いております。回数もぜひふやしていただきたいという要望をしている方も大変多くいることを、この場で言われるまでもなく、御承知のことと思いますが、あえて申し上げておきたいというふうに思います。

そして、機能訓練なんです、機能訓練と機能回復訓練の違いということです。今やっている、館山市で行っている機能訓練、集団リハビリ事業というのは、社会性充実、日常生活の充実のための訓練というふうに理解をいたしました。ただ、ぜひともまた機会があればこの問題についてはやっていきたいと思いますが、また違った観点の方からも事業として考えていっていただけないかということを申し述べて、終わりといたします。

◎議長（辻田 実君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

次に、3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） 最近、環境に対しての関心が大変高まっております。安全で快適な環境を維持することが年々難しくなっている現在、もうこれ以上悪くしてはいけないという叫びがこのような高まりになってきているのではないのでしょうか。このような中であって、館山市が策定した第3期館山市基本計画は、安全で快適な生活環境の創造が随所にうたい込まれている点、まことに当を得たものであると思います。これにより、今後館山市における

開発あるいはそれに類するものは、より環境に配慮し、よりよい生活環境の創造につながるものでなければならないと思います。

そこで、これらを踏まえまして、現在行われている県外からの残土搬入、これがこの基本計画とどう整合するか、質問させていただきます。

これにつきましては、大変問題を含んでおります。これは皆さんよく御存じのとおりだと思います。にもかかわらず、さらに大規模な計画が出されているのです。この計画は、岡田地区の山地へ5年間にわたって20万立米の残土を搬入しようとするものですが、これに間違いありませんか、お尋ねいたします。

また、この場所は、昭和47年から48年、1年間にわたって山砂の採取が行われた山砂採取跡地であります。そのときの採取量は8万6,431立米でありました。そして、その採取時に、昭和48年の10月の27日から28日の豪雨により、大規模な土砂災害を起こしております。これは詳しくは地域防災計画に載っています。このような場所に残土の運び込み、これは——基本計画では安全と森林資源の有効活用のため治山事業を推進するとありますが、この搬入計画は治山事業の観点からいって何ら問題にならないことなのでしょうか、お伺いいたします。

ここの搬入予定地は岡田川の源流であります。川は命の源と言っても過言ではありません。川を汚し、破壊することは、そこに生息する生物を死滅させ、やがては人間にその被害が及んでくることでしょう。川の汚染を考えたとき、土の検査体制、これはどうなっておるか、お伺いいたします。

既にこのようにしている間にも他県からの残土は搬入され続けておるわけです。その運搬手段は大型ダンプカーによるわけですが、大型車の商業地域の通過は、歩行者の安全、じんあいによる環境悪化、これなどはやはり基本計画にそぐわないことであろうかと思えます。仮に大規模な埋め立て計画が許可されますと、さらに大型車の量がふえると思われますが、市は実態をどう把握しておられるか、お伺いいたします。

今の搬入の受け入れは、農業委員会の方の許可によるものもあるわけです。農業委員会にお尋ねしますが、ここ二、三カ月の許可件数、これをお伺い

たします。優良農地の確保の観点から、埋め立ての審査は厳重を期してもらいたいと考えますが、いかがでしょうか。

また、この基本計画の中では、館山市のごみ最終処分場の建設が急がれているように受け取られましたが、現在、衛生センター周辺の残土の搬入状況から見て、衛生センター周辺が残土の処分場と化してしまっているのではないかと思います。今後ごみ処分場建設にこれが支障にならないかどうか。衛生センター周辺は、環境を悪くするというよりも、逆によくするように努めていかなければならないと考えておりますが、いかがでしょうか。

この質問は環境に対する一意見でありまして、多様化した現在の市民の間にはいろんな意見があることは当然であります。市長あてにいろいろな意見、要望書等が来ると思われますが、市長はこれらの意見をどう集約し、行政に取り入れていくか、御苦労されていることでしょう。建設的な意見に対しては、市長は前向きな姿勢で御回答くださることを希望いたします。

以上、お答えによりましては再質問させていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの三上議員の7項目につきましてお答えいたします。

館山市基本計画と開発事業の第1でございます。森林の治山事業と埋め立てとの整合性についての御質問でございますが、千葉県への林地の開発行為について事前協議がなされた場合には、館山市といたしましても、農地等への影響を与えない万全の措置と、周辺の自然環境の保全等に配慮するよう指導してまいります。

第2点目、水源の保護についての御質問でございますが、いわゆる残土とは廃棄物でない土砂等で、それによる水源の汚染は考えられませんが、念のため、埋め立て業者に対して搬入される土の成分分析と浸出水の水質検査を義務づけるほか、館山市におきましても浸出水の検査を実施しております。

次に、第3点目、大型車増大による交通安全についての御質問でございますが、道路の安全走行につきましては、今後なお一層関係業者及び関係団体

等と協議し、交通安全の徹底に努めてまいりたいと考えております。

次に、第4点目、じんあいによる健康被害についての御質問でございますが、ダンプカーの通行による砂じんにつきましては、館山港臨港事業協同組合が、館山地区連合区長会との協定に基づきまして、館山港と安房博物館との間の路面清掃を行っているところでございます。今後とも協定が遵守されるよう指導してまいりたいと考えております。

第5点目の農業委員会許可の埋め立ての計画性についてでございますが、これは農業委員会より答弁申し上げます。

第6点目、ごみ最終処分場についての御質問でございますが、一般廃棄物最終処分場を建設する際には、環境保全に十分配慮してまいります。

第7点目の行政に対する要望書の取り扱いについての御質問でございますが、行政に対します市民の意見、要望、相談等につきましては、従来から電話、手紙、市民相談室等により受け付けまして、きめ細やかな対応を図っております。また、館山市への意見、要望の内容につきましては逐次報告を受け、その都度対応しておりますが、今後とも、市民参加のまちづくりの観点から、市民の声を的確に把握し、適切な対応に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 黒川農業委員会会長職務代理者。

（農業委員会会長職務代理者黒川市之助君登壇）

◎農業委員会会長職務代理者（黒川市之助君） 三上議員の質問にお答えをいたします。

第3期館山市基本計画と開発事業の整合性についての第5点目、農業委員会許可の埋め立ての計画性につきましては、残土による農地の造成に関する許可手続につきまして、農地法に基づく一時転用の許可申請が必要になっております。千葉県知事の許可を受けて埋め立てができることになっております。

先ほどの三上議員の質問でございますが、まず、過去3カ月間の埋め立ての申請件数でございますが、平成7年12月が3件、平成8年1月が1件、2

月についてはございませんでした。

農地の埋め立てにつきましては、所有者である農業者の利用計画に基づき申請されるわけでございますので、その事業計画が農地法、その他法令に違背しない限り、地元農業委員会としては許可相当として知事に意見具申をしているところでございます。

なお、埋め立て行為により、他に影響を及ぼすおそれがある場合は、関係課並びに県関係機関と事前に十分協議し、施行者に指導しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 質問の中に20万立米を5年間にわたってということをお私はこれで間違いないかということで言ったと思いますが、これに間違いありませんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御指摘の地域への残土の埋め立て申請書につきましては、まだ市の方に提出されてございませんので、面積につきましてはおおむね2ヘクタール程度というふうな話は聞いておりますが、内容についてはまだ承知してございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私が今まで担当課に何回か行って聞いておる限りでは、20万立米5年間というのは既に提出済みの書類の中に書いてあるということですが、じゃこれはまだ白紙に戻るという可能性もあるわけですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 残土の埋め立ての許可申請書として正式にまだ申請、提出がなされていない、そういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 許可申請ということですので、その中には当然いろ

んな計画書のようなものが入っておると思うんです。そこにもうたっておりませんか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 正式に申請書が出されておられませんので、話には — 先ほど申し上げましたように、面積等については、この程度の面積だということは承知をしておりますけれども、具体的に私どもの方でまだ内容そのものには触れていない、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それではちょっと根拠があいまいなので、私の質問は、それに対してはそれ以上のことは言えませんが、この場所に、そういった申請が出ていないとはいうものの、一応話があるということは、林地の治山事業に支障を来さないかどうか。これは程度問題もあると思いますが、私は20万立米というのは、もう既にそれは量的にははっきりしているとおったわけで、それが問題になるかならないかということをお聞きしたかったんですが、一步下がって、そういう計画が治山事業に影響を及ぼさないかどうかということをもまず伺います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 治山事業は、山林等が自然災害等で崩落の危険性があるとか、または崩落したというようなときに予防、復旧をするという、こういう事業でございます。これは基本計画にもございますように、そういう森林環境保全のための事業、こういうことでございます。この残土の埋め立てが直接的にその治山事業にどう影響があるかということでございますけれども、土地利用というものはやはりそれぞれの時代の要請等に当然かかわりがあるわけでございますので、直接的にかかわりがあるという判断はちょっとできないのではないのかな、土地利用のそういう要請があれば、それはそれなりにまた別個な判断に立って対応していくのではないのかな、このように考えます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3 番三上さん。

◎3 番（三上英男君） としますと、その治山事業と別個に考えていくということではありますが、いずれは、それが適当であるとみなされない限り、何らかの指導をするというように受け取ってよろしいでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） いわゆる残土条例というのがございます。それに沿いまして適正な指導をしてまいる、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3 番三上さん。

◎3 番（三上英男君） 残土条例の中に市長が必要と認めたことという項目があると思います。その中で、土は問題はない、工法も問題はない、何も問題がないというならば、もうそれでオーケーという — それでは、市長が必要と認めたことということの中に — 私が思うに、それが適当な量であるか、これは後々災害を起こすような量ではないのか、そういった判断というのは、これは当然市長にかかってくると思います。その市長の認めたということの中にはそういうことも含まれておるかどうか、お尋ねします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 当然その地域の立地環境等によりまして、それに合わないような量の埋め立てがなされるということは、これは残土条例の技術上の基準等に照らし合わせて適正に判断をしていく、こういうことでございます。

◎議長（辻田 実君） 3 番三上さん。

◎3 番（三上英男君） それでは、一応話があるという段階ですので、適正な量の指導、これらは当然やっていただけるものと考えておりますので、その点はよろしくお願いいたします。ですから、これは当然許可した段階において、災害の発生を見た場合、その責任ということにもつながりますので、その点の配慮を十分してもらいたいということ。

それから、さっき言いました今の県外からの残土の搬入、この土の検査ですけれども、搬入時のみ業者側から出されている成分表、これではちょっと

不十分だと思います。条例には抜き打ち的にやるというようなこともたしかあったと思いますが、今現在行われているものに対しても、やはりそのような土の検査というものは頻繁に行わなければいけないことと考えておりますので、その点について、ただ単に業者の成分表のみによるものじゃないということをお答え願いたいと思いますが。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御質問のように、搬入時にまずその土砂の成分表を提出をしていただく。今まで業者の指導につきましては、それを含めて年2回程度のチェックはしていただく、それ以外に必要なに応じて市の方もチェックを行っていく、従来からそういう方向で進んできているところでございますが、今後もそういう形で十分チェックはしてまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、今の段階で正直言いましてそういうことができるかどうか。今各現場に分散している状態でできるかどうか。大きな事業に対しては比較的やりやすいかもしれませんが、今の段階で果たして年2回ぐらいの検査ができるかどうか、その点。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） この年2回の土質の検査というのは、事業者の方に一応義務づけて実施をさせる、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それにつきましては、それを徹底してもらいたいということの要望にとどめておきますが、次に、大型車の通行量の増大に伴って、商業地域の歩行者の安全とか、まちの環境の悪化、これらの――行政側が大型車の通行量等の実態を把握しているかどうか、また住民に対しての意見等の聞き取り等をしておるかどうか、お伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 御指摘の通行部分の通行量ということでご

ざいますけれども、大型車が非常に多いということは十分認識をいたしておるところでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私が2月26日、1時15分から2時15分の1時間、館山栈橋際で上り下りを調べましたところ96台、大戸で翌27日9時半から10時半、やはり上り下り95台、これは1時間当たりでありましたけれども、これからまた受け入れ態勢が——館山市で県外からの受け入れがふえた場合、まだまだふえることも考えられます。そのときに、業界では清掃しているということで聞きますが、本来土のついた車両は、車輪を洗うなり、ボディーの下回りを洗うなりして町中に入らなきゃいけないのは、これは本来の姿であると思うんです。ところが、数がふえていきますと、そのままの形で市街地に乗り入れるということで、これが上り下り同じルートを行った場合に倍の通行量になるわけで、何かルートを上りと下りを変えるなり、そういった形をとらないと——本来、産業に関する車というのは余り市街地を通らないのが原則じゃないかと思うんですが、これもお互いに生活がかかっておりますので、そうも言えませんが、ふえてきた場合には、やはりルートを変えるなどの指導は必要じゃないかと思いますが、その点いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 交通量が多いから、これらの緩和対策といえますか、交通規制をする、これは無理な話ではないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それは無理な話といいましても、片やコストの面で最短距離に行く、そのために商店の商業活動にも支障を来す。やはりその中間をとるような形が必要ではないかと思います。ましてや、道路を土等で汚すということに対しては、やはり業界との話し合いを持って、清掃に、車両の管理等に注意してもらうように申し入れを行政側がすべきじゃないかと思

いますが、いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御指摘のように、粉じん等によりまして生活環境に大きな影響を与えるということは、これはもう極力避けなければいけないことでございまして、先ほど市長の答弁にもございましたように、館山港から安房博物館の前でございしますが、特に家屋の連檐しているところにつきましては、これは業界側の方で、路面清掃車で終日清掃をしている、そういうことでございます。それ以外にそういういろんな問題が出てきた場合には、議員のおっしゃるとおり、これはやはり業者側にいろんなそういう申し入れはこれからもやっていく必要がある、このように認識をいたしております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それでは、とりあえずこれを契機にと言うと、随分おこがましい感じですが、実態を調査していただきたいということを要望いたします。これは、今言いますように、粉じんとか排気ガスとか交通安全とかという多方面になるかと思いますが、それを要望したいと思います。

それから、ごみの最終処分場に関してであります。私は現在、焼却灰の埋め立てに関しては、余り好ましいこととは思っておりません。これは溶融して、ある程度は無害なものにするということ。また、全部できないまでも、半分とか3分の1とかという方向に持って行っていただきたいと思っております。しかし、大きなお金もかかることですので、とりあえずはまた最終処分場をつくる以外に方法はないかと思うんです。そうしたときに、現在の埋め立て計画と最終処分場計画がそこで――最終処分場の建設に支障を来すようなことが起こりかねないんじゃないかということを思っております。といいますのは、今の衛生センターの周辺は、どっちみち環境が悪いんだからというような気持ちで、だんだん、だんだん悪くする方向にいつてしまっていると思います。それは間違いであって、悪いところはよくしていこうというような行政のあり方が大事じゃないかと思います。ですから、最終処分場を

その周辺につくるとしたら、今のうちから余り無制限な残土の運び込みはさせないという方向が大事じゃないかと思います。今回ごみの最終処分場はやはりその周辺につくるのであるかどうか、お尋ねいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御質問のとおり、現在の処分場もあと3年程度というようなところでございます。いずれにしましても、新しい処分場の計画を今後進めていく。でき得れば周辺地域に建設をしたいという、そういう考えは持っております。

それから、先ほど減容化等の御指摘がございましたが、私どもとしても、処分場への負荷を極力少なくするために、そういう減容化等についても当然視点に入れて今後いろんな計画を進めていく。ただ、その減容化の技術的な部分がまだ確定されていないというようなところもございますし、その辺を見守りながら対応をしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 先ほど御質問の中にあつたことで、大事なことです、一言言わせていただきます。

環境の悪いところなので、年々悪いものを持ってきているという御発言がございましたけれども、決してそのようなことはございません。多目的運動場も整備したばかりでございます。よりよい環境にすべく、市としても努力しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今助役がそういうことはないと言うわけですので、それはそのように承っておきますが、この岡田地区の件につきましては、既に搬入の道路はできております。ですから、やはりそのままにしておけば――それは運び込みが悪いということじゃなくて、いろんな市の計画等とうまく合っているかということをおっしゃるわけで、どうも今の運び込みは、残土条例に合っていればもう仕方ないんだというようなところが多々見られ

る。しかし、最終的に許可するのは市長の決断であるわけで、これはもうだめだとなれば、たとえ残土条例に適合しておっても許可しないというような英断をしていただきたいと考えるわけであります。

そのようなわけで、市民からの要望が — 確かに少数意見かもしれませんが、建設的で将来を見据えた意見というものがあるわけであります。しかし、大勢がこうだから、もうそれに対しては対応しないというようなことでは、将来禍根を残すようなことが起きるかもしれません。そういった少数意見に対しても — 市長は前向きな態度でやられるということでしたので、それを十分希望しておきます。

私は、最初のこの20万立米のことについて、また戻りますが、どうもその点がまだひっかかっているところなんです、担当者の話では、それは申請が出ていないということだけであって、話がまるっきりないということじゃないわけでしょうから、前向きにこのことに対して検討していただくことを希望いたしますが、その点だけでもひとつお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） その埋め立て土量の関係でございますけれども、先ほど三上議員からも御質問ございましたように、残土条例に合わせてそういう土量等についても検討をしていくということでございます。仮にその業者の方のお考えが20万立米でありましても、検討する段階でそれが不適切だということであれば、その基準に沿った指導をしていく、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それでは、こういった県外からの残土の搬入に対して、館山市の考えを — 館山市が基本計画と照らし合わせて何なりかの対策をとるということに対して、前向きに検討するということで理解してよろしいわけですね。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 前向きにという御質問でございますけれど

も、周辺にその行為によって悪影響が及ばないように、残土条例等の適正な運営、そういうようなことに努めてまいりたい、こういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それでは、そういうことを期待しまして、私の質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました4点について、市長及び教育長の所見をお尋ねをいたします。

まず第1点は、住専処理問題についてであります。国民から預かった税金を政治家はどのように考えているのか。政治家不信が広まり、大変大きな政治問題に発展していることは御存じのとおりであります。市政を預かる者として、市長はこの問題をどのように考えているのか、その所見をお尋ねしようとするものであります。

住専処理では、第1次分として6,850億円もの国民の血税をいわゆる住専、住宅金融専門会社の不始末の後始末のために注ぎ込もうとするものであります。しかもこれは第1次分にすぎず、さらに今後2次損失分として1兆2,000億円が見込まれ、この半分以上を血税で負担するというのであります。それも、それだけにとどまるとはだれも保証できず、もっとふえる現実的な可能性があるのであります。こんなことが続けば、住専にとどまりません。なぜ国民が住専の不良債権の後始末に責任をとらなければならないのでありましょうか、全く理解できません。

現在明らかにされている資料からも、大銀行などの母体行の責任は重大です。住専を子会社として人事、資金を握り、これをさんざん利用してきた大銀行などの母体行には3つの大罪があると、我が党の志位書記局長は国会論戦で指摘をしました。

すなわち、第1の罪は、バブルの時期には、暴力団絡みの地上げなど、銀

行が危なくて直接手を出せない不動産投機を別働隊としてやらせたことであります。リゾートに絡むゴルフ場、マンション開発などの地上げはすさまじい勢いでありましたが、これらは大銀行などの母体行からの巨額の資金によって操られていたことが明らかになってまいりました。

第2の罪は、バブル破綻後は、銀行の不良債権を押しつけるごみ箱にしたことであります。母体行が住専に押しつけた紹介融資は、不良債権になったものが1兆5,734億円の巨額に及んでおりますが、それは実に紹介融資の91%にもなるのであります。中には暴力団絡みの会社もあると言われ、銀行ではできない融資を住専に紹介し、押しつけていたのであります。

第3の罪は、住専の経営が破綻すると見るや、大銀行など母体行は責任逃れに走り、1兆円の資金を背信的に引き揚げたことであります。これにかわって融資額をふやしたのが農林系資金でありました。迷惑はかけないという念書があったとされますが、結果的にだまされたも同然です。背信的に自分の資金だけは引き揚げた母体行の責任は極めて重大だと言わなければなりません。

しかも、これら母体行はその責任を果たす体力がないわけではありません。銀行が低金利政策のもとで庶民から吸い上げた利ざやは4年間で16兆円にもなると言われます。これは、国民1人当たり13万円、3人家族で40万円にもなるのであります。史上空前の業務純益を上げ、十分な負担能力があるのであります。

バブル期には、住専を利用して地上げなど土地投機で暴利をむさぼり、バブルがはじけると、焦げつき債権のごみ箱として利用し、経営破綻と見るや逃げ出して、農林系金融や国民に負担を押しつける大銀行など母体行の身勝手に国民の多くが納得できないのは当然のことであります。

どうして国民が納得できないこの処理策を政府は強行しようとするのでありましょうか。それは、母体行などの銀行が自民、新進、さきがけに巨額の献金をしているからではないでしょうか。実に大口献金の半分以上を占めているのが銀行の献金です。銀行は自民、新進、さきがけなどの最大のスポンサーになっているのであります。三和銀行の相談役は、献金は政治への発言料だ

と、あけすけにそのねらいを語っています。銀行から巨額の献金をもらい、その見返りに国民の血税で銀行を助ける、こんなばかげた政治がこの住専問題の本質です。多くの国民がそんなことは納得できないと思うのは当然のことではないでしょうか。

住専処理の不良債権処理は母体行の責任で行うべきで、税金支出はすべきでないと思うのでありますが、市長はどのようにお考えになりますか。

次に、住専は大蔵官僚の天下り先で、大蔵官僚OBがたくさん役員をしていました。大蔵省と銀行との癒着は構造的なものになっていると言われます。官民の不明瞭な関係を生み出している民間金融機関への大蔵官僚の天下りは禁止すべきと思うのでありますが、どのようにお考えでありますか。

次に、館山市は平成6年度末で約144億円のいわゆる借金残高がありますが、このうち利率が6%以上のものが47億円にもなります。借金全体の3分の1ほどを占めるわけでありまして。現在の貸し出し利率は3.15%ないし3.25%と聞きます。現在の利率の倍近い利率であります。なぜこんなに高い利率を市は払い続けるのでありましょうか。この低金利の時代に高い金利を払い続けることは納得できないことであります。高い金利のものを平均で2%引き下げるだけで、1億円近い支払い金利が不要になります。それをあえてせず、高い金利を払い続けることは、これは銀行への形を変えた公的資金の投入そのものではないでしょうか。高金利の借入金の低利借りがえや繰上償還は、市の財政上望ましいことと思うのでありますが、どのようにお考えになりますか。

第2点は、館山市地域防災計画の見直しについてであります。施政方針の中で、館山市地域防災計画の見直しを行うとしております。私は、この防災の考え方の中で、災害の予防的対策は極めて重要な位置づけにあるべきだと考えます。こうした点から、家屋の耐震補強は重要な課題であります。

阪神・淡路大震災の教訓から、建築物の耐震補強が重要な課題として位置づけられ、昨年12月には建築物の耐震改修の促進に関する法律が成立、施行されました。この法律は、公共的な建物はもとより、個人住宅もその対象に含むものであります。12月議会では、横浜市が独自の制度として木造住宅の

耐震診断を無料で実施していることを紹介いたしましたが、こうした耐震診断の無料制度や助成制度が全国的に広がっております。市の事業として、住宅の耐震診断を助成し、建築物の耐震改修の促進を促すべきと思うのですが、いかがお考えになりますか。

次に、震災における火災予防対策についてであります。ことしの1月25日に開かれた火災学会では、阪神・淡路大震災では出火原因のトップが電気だったとし、地震火災を防止するために、地震時の電気遮断対策が必要になっていることが強調されました。神戸市消防局の調査によりますと、電気関連は出火原因の47.7%でありました。また、神戸大学等の調査では、電気関連39.5%、電気とガスが複合的なケースが20.9%、合わせて60.4%が電気に関連するものであります。阪神・淡路大震災では電力の復旧に伴って火災が発生したことから、地震時に避難などで自宅を離れるときは電気のブレーカーを切ることを徹底する必要があると報告をしています。いわゆる通電火災と言われるものであります。震災防火対策として、この通電火災対策は重要と思うのであります。

先日、安房郡市消防本部から「大地震からわが家を守る5か条」——これですけれども、チラシが各家庭に配布されましたが、この中ではこの通電火災のことは全く念頭に置かれていません。阪神・淡路大震災では実に約半分が電気関連の火災であったことを真剣に受けとめるべきと思うのであります。避難するときはブレーカーを切ることなど、徹底すべきではないでしょうか。いかがお考えになりますか。

第3点は、稲村城跡の保存と館山工業団地への進入路（市道8042号線）についてお尋ねをいたします。施政方針では、館山工業団地については早期実現に向けて努力するとしていますが、この工業団地への進入路として計画されている市道8042号線は、稲村城跡、いわゆる稲の城山をいわば橋げたにして、国道と線路をまたぎ、さらに稲村城跡の中心部を縦に貫くように計画がされています。これでは、稲村城跡の大規模な破壊は避けることができません。

この稲村城は、里見氏が房総に覇権を打ち立て、また内訌に揺れる時代、

里見氏の初期の本城があったところであることはほぼ確実であります。稲村城は、里見氏の歴史上重要な居城であったと思うのであります。なぜ稲村城跡を破壊するような計画をされたのでしょうか。この稲村城跡の保存についてどのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

第4点、戦争史跡の市文化財指定についてお尋ねをいたします。太平洋戦争の末期、沖縄戦が終結し、本土決戦が叫ばれていました。この本土決戦は、首都東京への進軍を阻止するものとして想定され、房総半島は首都防衛の捨て石とされ、有人ロケット「桜花」や特攻艇「震洋」などの特攻作戦の基地がつくられました。館山市内の戦争史跡は、第2の沖縄戦の戦場になる危険があったことを示す重要な史跡ではないでしょうか。

昨年3月、文化庁の史跡指定基準が改定され、第2次世界大戦終結ころまでの戦跡、古戦場、戦災跡などが加わり、文化財保護法の指定対象に晴れてなり得ることになりました。昨年9月市議会で、私の質問に対して市長は、平和のとうとさ、戦争の悲惨さを後世に伝えていくことは極めて重要なことと答えているわけであります。戦争遺跡を市の文化財として指定し、後世に戦争の悲惨さ、そのばかばかしさを伝えていくことは重要な意義のあることと思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

以上、4点にわたって質問をいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（辻田 実君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開きます。

神田議員の質問に対する答弁を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 午前の部の神田議員の4点の御質問にお答えいたし

ます。

まず第1の住専処理問題についての第1点目でございます。住専の不良債権処理についての問題でございます。この御質問でございますが、現在国会において平成8年度予算案が審議中でございまして、世論の動向等を踏まえまして十分論議されるものと考えますので、その推移を見守ってまいりたいと思います。

第2点目、民間金融機関への天下り問題についての御質問でございますが、これは現在国政の場において抜本的な見直しが検討されているとのことでございますので、我々国民が納得できるより適切な対応を期待するものでございます。

第3点目の高利の借入金の低利借りがえや繰上償還は市の財政運営上望ましいのではないかと御質問でございますが、低利借りがえにつきましては原則的には認められておりません。また、繰上償還につきましては、難しい側面もございまして、現在銀行等縁故債について検討中でございます。

次に、大きな第2、館山市地域防災計画の見直しについての御質問の第1、耐震診断と耐震改修についての御質問でございますが、木造住宅の耐震診断につきましては、各家庭に耐震診断のできるパンフレットの配布と、地区別講習会の開催並びに相談窓口の開設等を計画しております。また、耐震改修の促進につきましては、法律が施行されたばかりでございまして、今後の課題としてまいりたいと考えております。

第2点目の通電火災対策についての御質問でございますが、震災時における通電対策につきましては、東京電力館山営業所と協議をしているところでございます。

大きな第3、館山工業団地の進入路に係る稲村城跡の保存についての御質問でございますが、史跡等の文化財の保護につきましては、事前に必要な調査や関係機関との協議を行いまして、適切に対処してまいりたいと考えております。

大きな第4、戦争史跡の御質問につきましては、教育長より答弁申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第4、戦争史跡の市文化財指定についての御質問でございますが、市内全域に多数の戦争史跡が確認されており、これを戦争の史実として認識し、検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 住専の不良債権処理問題について、国会で論戦中だからこそ市長の見解が聞きたいということなのですが、論戦中だからその推移を見守るでは——市長さんは政治家としてどう考えているのか。要するに、公金というものをどういうふうに市長は受けとめて考えているのか。税金です。国民の血税なんです。こういう血税に対してどういうふうに受けとめるのか、そこに市長の政治姿勢があらうかと思うんです。

その辺で、私は今回の税金の投入という問題はやはり筋が通らない金だ、こういうふうに思うし、国民の多くが納得できないと言っているわけです。新聞の調査などでは、9割近い人が納得できないということなんです。そういう状況の中で、あえてそれを強行しようというのは、これは民主主義の原則からいってもやはり問題のあるところだろう。政治家として、市民とともに歩むということを市長の場合はキャッチフレーズにしているわけですから、そういう点から見ても、今の事態はゆゆしきことなんじゃないかな。それで、市長の政治家としての信念というようなところから、現在の事態をどう思われているのか、お聞かせいただきたいと思うんです。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御質問の住専の破綻に至りました不良債権処理問題について、私は責任については3者にあるということを考えております。

1つは企業でございます。この企業責任。1971年にできまして、80年代の前半まではまあまあ——国民の、ローンの、住宅建築等の仕事ですから、それが1980年代の後半から急激におかしくなっていく。この責任はやはり企

業者の責任である、これは明確でございます。特に、紹介融資その他が出てまいりますけれども、これが企業として成り立つ融資であるかどうかなどというのは責任をきちんととらなきゃいかん。貸し手の責任でございます。

2番目の責任問題、これは議員さんもおっしゃっていましたが、母体行の責任というのは大きく、特に紹介融資の名において大量の資金を母体行から住専に出して、それを不動産関係のものに貸している。これは設立の趣旨にさえ反するのではないかと考えられるような、そういう融資の仕方。しかも、その融資の場合に裏づけのない融資までもさせているとしたら、なお問題だ。そういうところに大きな責任が伴う。

第3点目は行政と政治の責任でございます。この間における住専に対する行政的な指導がどうであったのか。しかも、政治的にこの始末をどうするか。おっしゃるとおり、税金を使うとすれば、早期に決着をつけるという意味とは発表されておりますけれども、国民の立場から見て、どうしても理解し、納得した上での税の使い方であればいけないということでございます。

そういう点から、責任は設立した母体行にもある。住専の企業体にもある。さらに、そういうものを指導できなかった行政担当にもある。税金を使うという意味で、我々に理解、納得をまだ十分させ得ないという政治家の責任もある、こういうふうに考えます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 市長の認識が、どういうふうにお考えなのかということで、わかりました。やはり税金というものは国民の血税だという、こういう厳しい姿勢が政治家にも求められるし、行政にも求められるんだということを強調しておきたいと思うんです。

そこで、我々の血税がどういうふうに使われるかという問題に入るわけなんです。先ほど館山市は低利への借りかえができないのかというお話で、それは難しい、それは認められていないというような——低利への借りかえ、これはできないんだ、繰上償還について、縁故債について現在検討中だ、こういう御答弁だったんですが、各地でこの問題はやはり大きな問題になっております。非常に今高い利息を地方自治体が払っているということで、県内

では浦安市がこの借りかえをしたというようなことも実際問題として出てきておりますし、富山県の黒部市では、91年5月から93年5月に借り入れた6.85%ないし5%の金利のものを――9億4,300万円ほどあるそうではありますが、これを3.9%のものに借りかえを今年度実施する、こういうことで予算が組まれたそうであります。このために、支払うべき利息が5,723万円少なくなりました。これは縁故債に関してのものであります。リストラという言葉が盛んに言われますけれども、まさにリストラをしなきゃいけないのは、こういうところこそ本当にメスを入れなければならないところだと思うんです。

館山市が年間に支払っているこの利息、1年間に一般会計で幾らありますか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 大変おくれて済みません。

8年度予算の中で、地方債の利子分としましては7億8,900万でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 7億8,900万、大変な金額が我々市民の血税から利息として支払われているわけです。市民が1年間に納める個人市民税、新年度予算では22億です。個人市民税が予算上盛られているのは22億、このうち7億8,900万というのは大変な金額だ。個人市民税の3分の1ですか、これが利息に支払いに消えてしまうという、こういうことです。やはりこの金利の支払いをどう少なくするか、非常に重要な課題だと思うんです。

先ほど縁故債については検討中であるというお話がございました。具体的にどのような計画なり考え方をお持ちになっているのか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 現在縁故債で市中銀行から借り上げているのが7,800万ほどあるわけでございます。先ほど市長の答弁にもございましたように、市中銀行も、利率の高いときというんですか、そういうときにそういう条件の中で契約を結んで借りているわけでございますけれども、それが現

在かなり利率が下がっている、そういう中では協議に対しても非常に難しい、
こういう状況があるわけでございます。それで、今浦安とか、他市の状況が
いろいろ話としても出ましたけれども、その辺についてもどういうふうに具
体的にやられたのか調査をしてみたいと思います。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 確かに縁故債と、それから政府債の関係で、国の
ものについてはなかなか難しい面があることは承知しております。したがっ
て、この利息の中で非常に多くの部分は政府の政府債ということになるわけ
ですから、この部分について、非常に高い金利を現在でも館山市では払って
いるわけです。約3分の1が6%を超える高い金利になっているんじゃない
かと思いますけれども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） その前にちょっと訂正をお願いしたいんですけ
れども、縁故債が7,800万という話をしたんですけれども、これは6.5%以
上の高利率が7,800万というふうに御訂正を願いたいと思います。

それと政府資金等々の話の関係なんですけれども、これにつきましては、
交付税の対象になるものが— 具体的な数字で申し上げますと、平成7年度
末で市債残高が166億、そのうちの交付税対象のものが約132億、約8割が
交付税対象になる。それで、その交付税に算入する額が70億。四十数%が、
166億の約半分が交付税措置される、こういうふうに理解しておるわけでご
ざいます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 交付税措置されるという問題ですけれども、結局
は館山市はほかの市の関係からいえば有利だということになるんでしょうけ
れども、基本的には地方交付税というのは地方自治体の共通の財源でありま
すから、やはりトータルに考えた場合には、高い金利のものを放置している
ということは、決して地方財政全体にとっていいことではないわけです。し

たがって、こうした低利のものへの借りかえ、こうしたものが制度的にもできるように、国に対してやはり指導を求めていくというようなことが今後の大きな課題ではないかなと思うんです。

そういう点で、現在の大蔵のあり方の議論も非常に今回の問題を通じて大きな問題になっているわけですが、地方自治体という立場からしますと、非常に高い金利のものが — 高い金利を支払い続けなければならないような、このような制度によって、地方自治体の財政危機をさらに進めているという、こういうことを改善していくような方向というのが求められるんじゃないかと思いますが、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 神田議員御指摘のとおり、確かに地方債制度につきましては、昭和25年ですか、それから現在まで国、県の方で当分の間許可するという、そういう制度になっているわけでございます。そういう中で、財政担当を預かる一人としましても — 財政運営の中で、その地方債というのは非常なウエートを占めるわけでございます。まして、今その高い利率というものが地方団体に占めますウエートというのはかなりあるわけでございます。ただ、金融秩序といいますか、そういった問題も片やあるわけございまして、そういう中で、市の財政担当を預かる内部でもさらにその辺のところを議論をしていきたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 内部の話だけじゃどうにもしようがない話で、これは国の制度の問題にかかわっている問題ですから、やはり市長さんなり全国的な団体なりでこういう問題を1つのテーマとして声を上げていくことが必要だという点を指摘しておきたいと思うんです。

次に、地域防災計画の見直しにかかわる問題ですが、館山市としては、耐震改修については、パンフレットの配付、地区講習会とか相談窓口というようなことで、それなりの努力を今回は予算の中でもしよう、こういう姿勢は姿勢として私も受けとめていきたいと思うんです。

そこで、全国的に見ましても、この耐震改修について、助成措置だとか、あるいは無料耐震診断制度だとかということで、各地でいろんな制度がどんどんつくられているというのも昨今の状況であります。しかし、残念ながら千葉県では、この耐震改修についての援助とか、耐震診断についての助成措置とかという具体的な内容がまだ煮詰まっておらないという状況だろうと思うんです。それで、関東大震災の教訓からしても、この南房総は最もひどい——南房総というよりも館山ですね。非常にひどい被害を受けた、そういう都市として、また市長さん自身も自分のうちが心配だということもございましょう。これは千葉県に対して、この耐震診断に対する助成措置、あるいは耐震改修に対する助成措置、一般住宅の、こういうものを県の制度としてつくっていくように働きかけていくということが今必要ではないかなと思うんですが、そういうようなお考えはございませんか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 県におきましては、現在建築部門担当者によりまして組織しております建築防災連絡協議会、その組織があるわけでございますけれども、その中で検討の1つの項目として耐震改修対策ということがうたわれております。現在2回ぐらい開催したと聞いておりますけれども、そういったことで、この組織を通してこれから検討をされていくというふうに聞いております。その取り組みの動向を見守ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 今度できました耐震改修促進法ですか、これですと、館山市の人口規模よりもう少し大きな規模を前提として耐震改修の認定制度とかというものが想定されているという現実がありますので、これはやはりそういうことを県レベルで受けとめてもらわないと、なかなか制度の整合性の上からいっても難しい点があるだろうかと思うんです。その中で市として何ができるかという議論もあわせてしなきゃいけないと思うんですが、やはりここは、館山市としては、今度の耐震改修促進法の趣旨からいっても、ぜ

ひ県でそうしたことを検討してもらいたいんだ、館山市単独ではいささか難しい問題を抱えているんだということを上申していく、こういうふうに市の立場として受けとめたいと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 確かに今回の阪神・淡路大震災の死者を見ますと、これは重要な対策であるというふうに十分理解をしております。したがって、今後も県と協議してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 千葉県は非常におくれているんです。神奈川県、東京都、埼玉県、これはそれぞれいろんな制度を既につくって発足しているけれども、千葉県ではないということで、市町村レベルでも千葉県ではそういう特別なあれがなかなかないというような状況です。ですから、千葉県はおくれているんだという認識を私は持つんです。そういう立場から、特にこの震災対策という点で、館山市の奮闘が求められているというふうに思います。よろしくお願ひしたいと思います。

次に、火災予防対策でありますけれども、東京電力とこの問題について協議をする、協議中であるということですが、実際どうなのでしょう。阪神・淡路大震災では、起きた火災のざっと半分、これが電気関連だったということでもあります。対策としては、ブレーカーを切っておけば、そういう災害には、火災にはならなかった。考えようによっては極めて単純なことなんでしょうけれども、現在までの防火対策の上で見落とされちゃっている、ちょうど盲点になっているといいますか、そんな気がするんです。そういう点で、東京電力と協議中ということですが、どのような協議をなさっておるんですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 平成8年度、この年は今の地域防災計画、これを見直しをして策定に持っていこうということで進めてまいりますけれども、その過程の中で、既に関係機関と個々に協議に入っております。そう

いった中で、この通電火災も1つの重要な項目であるというふうにとらえて、今検討を重ねているわけでございます。それとあわせて、来年度パンフレットを市民に配布をいたしますけれども、その中に、市民にもその認識を深めてもらおうということで、ブレーカーの遮断の徹底を図るために、避難行動の原則の中にその項目を入れてまいりたいということで考えております。今後の重要な課題であるということは十分認識をしております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） ぜひそういうことで取り組んでいただきたい。残念なんですけれども、せんだって配られたこの中には全くそういう視点が欠けていたものですから、非常に残念だったんですけれども、こういう点をしっかりと受けとめて、今後の指導に生かしていただきたいなと思います。

稲村城跡の保存と工業団地との関係であります。この稲村城跡のちょうど真ん中を貫く形で今回の道路計画が、進入路計画があるわけで、開発に伴う調査対象といいますか、これは実際には全体がある中のちょうど真ん中辺を貫く形になりますけれども、実際には道路の計画のために事前調査が行われるというんだけれども、全体の調査を行いますか、それともこの道路部分だけの調査ですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 現在、工業団地サイドの考え方といたしましては、その道路にかかる部分、そういうことで考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） これは教育長さんにお尋ねしますけれども、全体のこの稲村城跡というのは非常に広い範囲、そのちょうど中心部を貫く形で道路計画ができて、今御答弁のように、調査をするのはそのちょうど道路にかかわる部分だとすると、遺跡の全貌が明らかにならない状況のもとで、この真ん中部分、道路にかかる部分だけを調査して、そしてこの遺跡全体のことが判断できるというふうにお考えになりますか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 今小沼経済環境部長が話したのは進入路の話でございますけれども、仮にこの城址全体を見るといえるときには、開発全体をこれは申請しなければならないわけでございまして、現在、使用する一部のみの申請となるならば、その部分についての申請があった場合には、文化財埋蔵保護というようなことでもって、その点だけをやることになると思います。しかし、大規模な開発ということが申請された場合には、これは全体として調査をしなければならない、こう考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） そうすると、この進入路に伴う学術調査というのは、その開発に伴う調査ということで、その道路部分だけのものになるのか、大規模なものとして、その遺跡の全体像を明らかにする学術調査が必要になるのか、どちらだというふうにお考えになりますか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 現時点におきましては、その一部分としての申請のあった場合には、それをもって調査の対象といたしたいと思うわけでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 私はそこの点の見直しを求めたいんです。全体についての調査をした中で初めてこの道路の部分についての問題が明らかになるんであって、初めにその道路計画ありきだということで進むと、この遺跡全体に対して、将来に対して取り返しのつかない失敗をしかねない、こういう危惧を非常に強く感じるわけです。ちょうどこの遺跡全体のいわば心臓部と言われる部分を貫く形になるものですから、やはり今度の道路計画がまさにその心臓部を貫く部分なんだということを全体の調査の中でこれは明らかにしないといけませんから、非常に大規模なこれは遺跡の破壊にあるいはならないという保証はないわけですから、その辺をやはり教育委員会としてもどう考えていくのかということで、再検討をぜひお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 今の段階といたしましては、全体像というようなことにつきましては、あくまでも開発申請というようなことのあった暁においてやらなければならないものでございますけれども、一応昭和58年度に頂上部分については調査はしてございまして、ある程度私どもとしては、その一部ではございますけれども、結果は持っているわけでございますし、さらに埋蔵文化財につきましの場所につきましても一応は考えて、その点につきましても、試掘はしておりませんけれども、見てはあるわけでございまして、これは今後の開発申請とのかかわりの中で全体を考えていきたい、こう思います。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 残念なんですけれども、そこでちょっと聞いておきたいんですが、ここの買収はまだ残っているというふうな話も聞くし、いや、もう終わりかなという話も聞くんですけれども、まだ買収は済んでいないということなんですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 城山にかかる部分につきましては、まだ用地取得は済んでおりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 戦争史跡の市の文化財指定についてということに移りますけれども、市内に多数あるものを今後検討していくということですから、ぜひお願いをしたいと思うんです。

50年の経過ということで、第2次大戦のこの時代が歴史ということで認識される時代になったんだ。これは大変大きな意味がある。そういう意味でこの館山市というのを見た場合には、歴史の宝庫だと思えるんです。それは、非常に第2次大戦の末期に多数の陣地が構築されたということと同時に、いわゆる開発によってそれが破壊されずに、かなり大規模に残っているという点では、まさにこの館山市は、第2次大戦の歴史の宝庫だという点では大変

大きな意味を持つというふうに思いますので、全国でも幾つか市の指定文化財として、例えば大分県の宇佐市では宇佐航空隊の掩体ごうが指定されたとか、あるいは東大和市では軍需工場の給水塔や変電所の跡が指定されたとか、あるいは沖縄では南風原の陸軍病院ごうが指定されたとか、あるいは国の指定で原爆ドームが、広島、これが指定されたとか、こういうふうに各地でその指定をして戦争の遺跡を保存しよう、こういう声も広がっているわけで、ぜひ館山市としても、歴史の宝庫なんだ、これは子孫に残す大事な宝なんだという立場で大事にしていっていただきたいなと思います。

以上で私の質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

次に、12番議員植木 馨さん。御登壇願います。

（12番議員植木 馨君登壇）

◎12番（植木 馨君） 本定例会の審議に先立ち、さきに通告いたしました諸点について質問させていただきます。

我が国の財政事情は、平成7年度末国債残高が220兆円を超える見込みであり、国債費が政策的経費を圧迫するなど、構造的に厳しさを増し、さらに税収見込みも減少、決算上の不足を生じ、財政事情は一段と深刻度を増すだろうと報道されております。また、国、都道府県、各市町村ともに、今後の社会経済情勢の変化に対応していくためには、節減合理化に努めながら、健全な財政運営をすることが大切な課題であると言われております。

そのような背景の中で、南房総の夜明けを控え、「新たなる飛躍と調和をめざして」をタイトルに、庄司新市長のもとに、平成3年3月、第2期基本計画がスタートして以来5年が経過いたしました。そして、いよいよ第3期基本計画スタートの年に入りました。この5年間を振り返ってみますと、生活環境、健康福祉、文化教育、産業経済面でのさまざまな事業は順調な進展を堅持してまいったように思いますが、しかし、本市の経済基盤である産業経済面の立ちおくれ、特に農水産、商工業振興等や、それらに関連した人口流出対策等の諸問題解決が大きな課題として残っている点は重視するところでございます。その殻を打ち破る力強い政策が必要であると感じているとこ

ろでございます。第3期基本計画では、残念ながら政策の強さが感じられません。また、予算面にしても、財政基金を大幅に取り崩しをしなければ財政運営ができない。財政の弱さがさらに感じられます。

そこでお尋ねいたしますが、基本計画策定に当たり、何を柱にどのような主導のもとに立案されたか冒頭にお伺いをいたし、順次質問に入らせていただきます。

第1点としまして、農業後継者対策についてであります。本市の農業全般の傾向として、大幅な高齢化が進んでいるため、あと何年も待たずして農業従事者の急激な減少が到来することが予測されます。現在、各農家におかれましては、後継者の悩みや農地維持管理の悩み等が深刻な問題となっております。現に、耕作農地を放棄する農家が年々ふえつつある現状であり、一刻も早い抜本的な対策を求めています。このたび出された生産基盤整備や経営の近代化推進計画には、各整備事業に合わせ、振興計画もいろいろと見受けられますが、ほとんどそのパターンは前回と変わっておらず、特に後継者対策については技術の習得、研修、交流等の施策のみで、問題解決の方向に進むだろうか、いささか危惧するところでございます。要は、これからの農業を支えていく後継者をどのように育成、定着させるか、若者が進んで求めてくる魅力ある農業をどのように創出するかがポイントであろうかと思えます。それは、農業構造を抜本的に見直し、思い切った対策を考え出すことが必要であろうかと思えます。その解決策をどのようにお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

第2点は、商業振興対策についてであります。かつては商業は本市の中心産業でありましたが、大型店進出や他商業エリアへの流出等により、急激に商業機能が奪われ、年々閉店する店が続出する傾向が出ていることは、行政として力強い対策を考えるべきではなかろうかと思えます。商店街の崩壊は、市財政に多大な影響があるばかりでなく、市民雇用の場を失うと同時に、まち全体の活気をなくす結果を招くことになります。商店街の皆さんも長年の懸案として取り組んできたようですが、打開策が見出せず、打つ手のないところまで追い込まれている現状です。このたび提案された商業振興計画で

果たして活性化を取り戻すことができるものか、危惧するところです。核心に触れたところが弱く、自信のあるものではないと感じます。もっと新しい感覚、発想を持って抜本的な施策を出さない限り無理難題だと思いますが、いかがなものでしょう。最後の切り札になるような施策があるかどうか、市当局のお考えをお聞かせ願います。

第3点は、花のまちづくり対策についてであります。私はまち全体が商品であると思っています。また、商品化計画がまちづくりではないかと考えています。訪れてくる人々がすばらしいまちであると高く評価し、何回も何回も訪れるまちづくりが大切ではなかろうかと思っています。市民がつくったまちがすばらしい誇りに思えるまちであるならば、訪れる人は必ず感動するに違いありません。計画の中にそのような発想の実現、夢の実現が考えられないものでしょうか。

私は、日本各地を旅行するたびに、必ずそのようなネタがないものかと注意の目を向けてまいりました。とはいっても、なかなかないものです。ところが、ニュージーランドに全国議長会主催の行政視察に参加させていただいた際、目にとまったのが南の島の中心都市クライストチャーチです。人口30万の広大な市全体が、住宅はもちろん、公園、空き地に至るまで、緑の芝生に草花、花木が咲き乱れ、手入れの行き届いた花の楽園都市をまざまざと見せつけられました。これだと思い、平成3年12月の通告質問に住民行政参加の中で花のまちづくりを提案し、さらに本年度の予算編成に当たって、要望事項にも提案させていただきました。早速本年度、基本計画観光整備事業に盛り込まれたことにつきまして、高く評価をさせていただきます。

つきましては、この花のまちづくり事業推進に当たっては、苦しい市財政を圧迫させずに最大の効果が発揮できる対策を考え、そして夢のある作品づくりを目標に取り組んでいただきたいものです。観光施設整備や南欧風景観形成と調和した花のまちづくりを展開するに当たり、どのような施策をお考えになられておられるか、お伺いをいたします。

第4点は、神余小学校統廃合についてであります。昨年、阪神大震災後、神余小学校を廃校し、豊房小学校に平成9年4月1日をもって統合する旨の

通知を出され、神余地区のよき理解と意思が煮詰まらないまま、本年度予算で統合を目指しての豊房小学校校舎安全対策改修、増築事業計画が出されておりますが、この計画に対してはいささかも反対するものではありません。むしろ実施してほしいと願っているものです。しかし、この統廃合にはまだ難問がたくさん残されていると思います。また、地区民の理解と合意を得ずして強行突破できるものなのかどうか。地区民の意思も十分酌んでやる必要があると思います。まして、半澤市長時代から、土地があればいつでも小学校校舎を建設しますと言い続けてきた経緯から、新築と廃校では全く正反対であり、地区民がおいそれと同意することは全く不可能ではないかと感じます。そこで、市当局の今までの経過と、今後の対応をどのようにお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの植木議員の御質問にお答えいたします。

まず、第3期基本計画の柱は何かということでございますが、この第3期基本計画策定に当たりましては、人間尊重を基本理念とした基本構想に基づきまして、南房総の中核都市として、圏域全体の振興を図る役割を強く認識し、策定いたしました。具体的には、将来都市像である「活力ある文化福祉都市」の実現のため、地域振興の柱として、海洋性リゾートタウンのまちづくりを目指しまして、産業の振興、都市基盤の整備、防災対策、医療、福祉の充実及び教育文化、スポーツ振興などを重点施策とし、市民だれでもが誇りに思える我がふるさと館山の活性化を図ってまいりたいと考えるものでございます。

次に、具体的な大きな第1、農業後継者対策についての御質問でございますが、近年の農業を取り巻きます環境は、全国的に兼業化、高齢化、後継者の減少等による農業構造の変化に加えまして、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意、農畜産物の輸入自由化等々の社会経済構造の変化によりまして、一段と厳しい局面を迎えてきております。このような状況の中で、館山市と

いたしましては、国、県の諸施策を踏まえまして、地域の特性を生かした効率的かつ安定的な農業経営の確立と、農業経営体の育成確保に努めてまいり所存でございます。

次に、大きな第2、商業振興対策についての御質問でございますが、振興対策につきましては、従来より館山銀座商店街振興組合、館山商工会議所、館山市等で検討を重ねてまいりましたが、このたび新たに千葉県の参画をいただきまして、魅力ある館山中心商店街づくり推進協議会、この会を去る2月29日に設置したところでございます。また、平成8年度には商業を含めました産業振興方策の策定を行う予定でございまして、それらとの整合を図りながら、魅力ある商店街づくりを推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、花のまちづくり対策についての御質問でございますが、花のまちづくりは、市民と行政が一体となり、フラワーライン、館山バイパス等の道路や公園、公共施設等の植栽など、その運動を展開してまいりました。今後さらに、花のまちづくりボランティアの育成と支援に努めるとともに、「市の花」の制定など、各地域、企業、家庭への啓発に努めまして、市民参加による花のまちづくりを推進してまいります。このような活動を通じまして、四季折々に花の楽しめる南房総館山の実現を目指してまいりたいと考えております。

第4点目の神余小学校統廃合問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第4、神余小学校統廃合についての御質問でございますが、学校規模適正化のため、神余小学校と豊房小学校との学校統合を目指して地元との話し合いを進めております。今年度は、地区及びPTA役員との話し合いと並行して、統合についての考え方を文書で全家庭にお知らせするとともに、過日、地元の方々全員を対象に説明会を開催し、統合に対する御理解と御協力をお願いしたところでございます。今後とも、地元の方々の御意見を十分お聞きしながら、誠意を持って話し合いを進めてま

いりたいと考えております。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） 第3期基本計画は何を柱にどのような主導のもとに策定したかという質問の内容の求め方が私の考えているのといささか違っているようでございます。ただいまの御答弁内容については、市長の施政方針で十分理解しているところでございます。

私は、人生には目的と手段と2通りしかないと言社会教育の中で教わってまいりました。これが間違っているかどうかはわかりませんが、私は信じております。これを御答弁内容に置きかえますと、これは目標であると同時に、目的であろうかと思ひます。そして、施策は手段であり、その手段の中で特に力を入れる問題は何であろうかと思ひきわめ、施策をはっきりと盛り込むことが大切なことだと思ひております。私がこのようなことを強調する理由は、経済問題や人口問題は、まちの攻防に大きなかわりを持つ重大な問題であるからです。今までまちおこしに成功した著書の中で一様に言っているところでございます。私も同感しております。

私は平素、行政執行部を4つに分類して考えております。これは余談のような形になりますけれども、1つは総務部でございますけれども、財政の元締め、それから二つ目は、企画部は市長の政策の元締め、それから三つ目、経済環境部は財源を生み出す元締め、それから四つ目は、建設部、市民福祉部は財源を使う元締め、このように4つの部分を総合的に考えているわけです。そういった中で、財源を生み出す部分の経済政策が非常に弱いように感じてなりません。財政を生み出す部門と使う部門が少しでもバランスのとれることが理想的な政策であろうかと思ひます。

先般、第3期基本計画推進の必要予算額が880億と発表されました。これを5カ年間均等で考えますと、毎年176億必要となるわけですが、そうしますと、本年度一般会計予算154億8,300万の予算規模から見て、21億1,700万円不足額になるわけです。どうしても市債に頼らざるを得なくなり、必然的に公債残高が膨張する。ただいま神田議員から言われましたが、公債費の利息が7億6,800万ですか、これくらいかかるということでございますけれ

ども、これもさらに膨張することが予測されるわけです。したがって、市民に多大の負担を強いる結果を招くことになり、これを避けるためには、まず自主財政力をつける政策、市民の経済基盤を豊かにする政策を最も優先すべきではないかと思います。

そこで市長さんに御提案申し上げますが、経済政策を柱にした企画主導の政策をとることが好ましいと思いますが、いかがお考えか、お伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 館山市の施策を進めていく上においては、当然企画力あるいは実施力、そういうものが求められるわけですが、もちろん、企画担当部長といたしましては、経済担当部あるいは都市基盤整備の建設部等と協力いたしまして、新しい施策あるいは活力ある文化福祉都市に向けてのまちづくりの施策を進めてまいりたい、このように思っております。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） 今の企画部長のお答えでございますけれども、もちろん企画部を中心にしてこれから政策を打たなきゃいけないわけですが、私がもう一つ考えていることは、市長さんは市民総意の結晶であるというふうに考えているわけです。したがって、市長の政策は市民が求めている政策ということになるわけですが、市民の多くの皆さんが今一番求めていることは、市民経済をよくしていただきたいということでございます。たとえその政策が不可能であろうとも、可能にしていかなければならない。これは地方自治体の永遠の命題ではなかろうかと思います。ですから、市長さんの出された計画策定は、これは一応各セクションである部門の皆さん方が十分検討を加え、経済政策は大事であるということであれば、それに向かって企画またはいろいろな施策を打ち出していくということが必要じゃないかと思っておりますので、この問題はやはりこれから行政として考えていかなきゃいけない。

それからもう一つは、市長さんは常に各部門と一本の糸で結ばれている。糸を引いたら各課へと伝わっていくというような、そういう一連の要するに

柔軟性を持った行政執行部のあり方でなきゃいけないと思います。各セクションがばらばらな計画を立てるようなことがあったんでは、これからの経済政策というのはなかなか立てていけないんじゃないか、そのように考えております。

いずれにしても、まだ先はございますんで、私の主張というのは、経済政策を柱にした企画主導であるべきだということを主張しておきますんで、もう一遍これを見直すものは見直しながら、また基本計画の方も、それに対する内容的にしっかりしたものを——肉をつけ、皮をつけて、行政をしっかりやっていたきたいと思います。この点はこれで終わらせていただきます。

第2点目は、農業後継者対策についてであります。再質問に入る前に、最近の20歳前後の就農者の数をお伺いしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 農業に従事している20歳前後の人数という御質問でございますが、これは1995年の農業センサスの数値でございますが、15歳から19歳の階層の人が19人でございます。それから、20歳から24歳の階層の方が26人。20歳前後といえますと、そういう数字になります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） ただいまお伺いした若者の新規就農者、20歳前後は45名程度ということですが、ちなみに私が平成2年度の就農者年齢別状況表を見ますと、15歳から49歳までの就農者が765人——これは統計調査によるものです。したがって、全体の24%。それから、50歳から74歳までの就農者が、3,200人就農者がいる中で2,181人ということです。全体の69%、約70%を占めているわけです。あと、残りの7%というのは74歳以上の方です。こういった就農状況を見ますと、先ほど私が述べましたように、あと何年もたたずして農業をやれなくなる人が相当出てくるということは、これはもうこの数字でもわかると思います。少なくとも15年ぐらいたちましたら——今765人50歳未満の方がいるわけですが、3,000人からの中で700、800じゃ、この館山市の農業は恐らく支え切れないんじゃないか。一番やはり

心配するのが、耕作農地が荒れていくということが、これが一番危惧される
ところですけども、そういうところから考えますと、本市の将来の農業は
まことに憂慮にたえない状況にあるわけでございます。

先ほどの市長さんの御答弁内容では、過去何年となくやってこられた計画
であって、その計画が悪いというわけではございません。確かに今後の新し
い時代の農業をやっていくには、この根幹事業というものはどうしても必要
な問題でございますので、ぜひ推進していただかなければならないことでは
ありますが、この事業推進だけじゃ、今私が申し上げた後継者の解決というものはで
きないじゃないかというふうに考えております。また、このたびその解決策
としていろいろなことを出してあるわけですけども、同じような計画をこ
うやって出していっても、一步も前へ進まないと思います。これからの農業
の盛衰がかかっている問題でございますので、この計画以外に何かございま
したらお伺いいたしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 農業後継者をどう確保していくかというよ
うな、当然そこへつながる今の御質問だと思うわけでございますが、この後
継者の問題につきましては、数年来本会議でもいろいろ御質問いただいてお
るわけでございますし、ただいま市長の答弁でも申し上げましたように、こ
れは館山だけではございませんで、やはり全国的な傾向にあるということで
ございます。

後継者がどうしたら確保できるかというような考え方の中で、魅力ある農
業を確立するというようなこともあるわけでございますが、大変これは抽象
的なものでございますが、やはり若い人たちが農業に従事しようという動機
づけというのは、サラリーマンと同じようないわゆる就業環境とか、それか
ら所得というようなものではないだろうかというふうに考えるわけでござい
ます。こればかりではないと思いますけれども、最大公約数で考えた場合に
はそこにいくのかなというふうに考えるわけでございます。したがって、
生産基盤の整備 — これはもう通作、それから耕うん、運搬、いろいろな部
分で非常に高度な土地利用ができる。そういう中で、さらには近代化施設等

を整備して高度な農業経営をそこに確保していく、そういうようなことが今やはり一番基本的なところではないのかな、このように考えているわけでございます。それ以外に、そういう環境が整備されても、必ずしもそこに後継者が居つくかということになりますと、やはり3K的な受けとめ方をすれば、それはあり得ない。ただ、現在行政として考えられることは、そういう生産基盤を整備して、就業環境とか所得の確保というようなことを現在は考えていくべきではないのかな、このように認識をいたしております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） ただいまの御答弁では、今までいろいろと計画を出されているそのままを言っているような、そういうことで、それ以上の策がないというふうに受けとめているわけでございます。

時間もございませんから、この問題は早く解決しなきゃいけないので、私の方から御提案をさせていただきます。まず、現在の若者の心理についてでございますが、小規模な農業経営では、経済的にも保障がない。不安定で、将来に向かって魅力がないという、そういう考え方が多くて、サラリーマンに一応転向している。サラリーマンの方が安定度も高いし、将来性もあるという、そういった考えと、百姓はまた骨が折れるというような、そういう双方の考え方でどうしても農業離れしていく、そういった傾向にあるのが実態であります。サラリーマンになりたいという、そういう考え方が非常に根強くなっているわけですから、そのような心理状態にある若者を育成、定着させていくということになりますと、私はサラリーマンとして雇い入れる農業構造をまず考え直していくということが大切じゃないかと思っています。

そして、現在地域の特性を生かして農業活性化に成功している花とかイチゴ等の観光農業があるわけでございますけれども、これは大成功しているわけです。これをさらにブドウだとかナシだとかミカンだとかカキ、それらまで拡大して、農地を集積して、大規模な観光農業構想が考えられるわけでございますけれども、本市にとりましては、御承知のように東京湾横断道路、館山自動車道、高規格127号が開通しますと、相当量の流動人口の入り込み

が予測されるわけでございますけれども、これを一挙に迎え入れる受け皿をつくる。そして、地域の活性化に相乗効果をもたらすような農業のあり方というものを考えられないかということでございます。

そこで、これは1つの発想でございますけれども、この経営母体を——行政主導の農業開発公社の設立をされたらと思うわけでございますけれども、これをまず御提案申し上げます。そして、内容的には、高卒者を公社社員として採用して育成、定着させる、これが最も可能性の高い方法ではないかと思うわけで、後継者対策としてこれが一番これから真剣に考えていかなきゃいけない問題であろうかと思ひますんで、そういった考え方を市当局の方に伺いたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今の御提案の農業開発公社という内容でございますが、そうしますと、農業の経営体というようなお考えかなと思うわけでございますが、昨年3月に館山市で農業に関する基本構想を策定をしたわけでございますが、この中では、いわゆる個々の農業経営体、それから企業型の農業経営体、さらには地域を挙げての地域農業経営体というような、農家の皆さんの活力を期待して農業経営を安定化していこう、そういう構想ができていますわけでございます。そういう考え方の中でまいりまして——それと、そのほかにも大規模経営につながるような、いわゆる水稲作等の受託組織等もできてきておるわけでございます。そういう中で、市がかかわるそういう農業経営体を今の段階で検討するといひますか、いろいろするといひのはちょっとまだ時期が早いのではないのかな、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） 執行部がそういった考え方でおったんじゃ、もう何年たったってこの後継者対策とか新しい農業振興というものはできないわけですから、だから——これはもう今農家個々にこういう話を持っていったってどうにもならないわけです。年とっている人たちはもう農業をあきらめて、もうおれ一代でいいというような、そんな考え方の人が多いわけですから、それで若い人たちもサラリーマンとか兼業でやっていますんで、だから

純然たる農業をこれから支えていくという — これだけの館山市の農地をこれから支えていくには、相当のやっぱり人数とか機動力がなきゃいけないわけですから、そういった面で、今農協もやれなけりゃ、各団体もやれないということであれば、どうしてもやっぱり行政主導のいき方でいかなきゃいけないんじゃないかというふうな考えを持っているわけですけども、それについては私もいろいろ調査した中で、行政主導の中で公社をつくってやっているとところ — 鹿沼市でございますけれども、鹿沼市は、ここは地域の特性を生かした — 鹿沼土が、植木の材料が出るわけですけども、そこでもって一応つくったのが鹿沼花木センター公社という財団法人ですけども、これを1つつくってあります。それから、今部長が言われたような受託農業ですか、この会社も、財団法人鹿沼農業公社というものをつくって — 館山市より面積が広いです。それでもこういうふうに対応して、まちの活性化、農業の活性化を図っているわけですから、これからは、これから商業問題も出てきますけれども、やはり行政主導の要するにいき方をとらないと、なかなかこの問題は解決できない。

ですから、こういうところでこういうのをやっているわけですから、だから館山市は — さっき私は統計調査の就農者数のあれをお話ししましたけれども、本当にこれから農業をやる人がもう 1,000人を切ってしまう。そういうふうなことになりますと、荒れた農地がどんどん、どんどんできてくるというのは、これはわかっているわけですから、今回だってそうでしょう。火災があるという、田んぼの草が燃えて、消防が出動するわけです。とにかく年々ふえているということで、このありさまを捨てておいていいものかどうかということ。これをやっぱり解決していくには、行政主導の中でこれやらなかったら解決を私はできないと思います。この問題は真剣にひとつ受けとめていただきたいと思うわけです。

それからもう一つ、これは別な話になりますけれども、今大型店が進出してきて、館山市の商店街の問題が出てきますけれども、あの大型店が吸収していくお金というものは膨大なお金なんです。これが全部大きな吸い取り器で吸い取られて、パイプでもって東京へ持っていかれちゃっているわけです。

こっちへこれから東京湾横断道路、東関道ができて、今 170万の観光客が来ていますけれども、今度 200万になるか、300万になるか、400万になるかわからないわけです。そのかわりに日帰りの流動人口というのがどんどん、どんどんふえてくるわけですから、その人たちにごみを捨てて帰られちゃ困るんです。金を捨ててもらわなきゃいけないんです。100万人の人に3,000円ずつ落としてもらったら幾らになると思いますか。30億です。30億といたらば、公社の職員を600人、500万ずつの年の所得をくれても600人採用できるんです。だから、経済政策というのはそういったいろんなことをやっぱり掛け算をしながらやっていかなきゃいけない。全国でまちおこしをやって成功しているところは、そういういろんな経済的な面とか、地元にあるものをみんな生かすものは生かして、それで掛け算をしながらまちおこしをしているんじゃないですか。これは行政がやっているんです。成功しているのはほとんど行政主導です。そういったところが館山市では非常に弱いということです。

だから、市長になったからには——市民はこの市長だったら立派なすばらしいまちをつくってくれるんだということで、だれよりも能力を持っているということで市長になってもらったわけですから、だから市長さんがそれだけの市民の負託にこたえるようなしっかりした政策を打たなきゃいけない。このままほうっていたら、事業をやりました。市債がどんどんふえて、公債残高がどんどん膨れるばかりになっちゃいます。だからやっぱり経済政策というのは、さっき私が言ったように、まちの攻防にかかわる大事な問題だ。これはもう既におわかりでしょう。ですから、こういうことをひとつ真剣にとらえてやっていただきたいと思います。

次に、時間がございませんから、商業対策についてお伺いしたいと思います。商業振興対策については、今度新たに県が参画されて、魅力ある館山市中心商店街づくり推進協議会、これが設立されたということであって、非常に力強く一步前進したなというふうに感じております。

商店街の状況は、もう既に御承知のとおり、いろんな要因から壊滅状態の危機にさらされているわけでございますけれども、これをとにかく早く立ち

直らせなきゃいけないというのが今大切な——そういった商店街の皆さん方が求めていることなんです。今までいろいろなコンサルタントとか、そういった方たちの御協力を得て計画推進がなされてきたようですが、要するに、今までいろんなことをやってきたけれども、進まなかったその理由について、何かあるかと思えますけれども、それをお伺いしたいと思えます。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 東口の再開発の関係だと思えますが、これはやはり当然土地の高度利用ということを目的として再開発するわけでございまして、容積率のアップ、要するにビル化していこうというものでございます。60年の前半あたりには、キーテナントとなります——核となるキーテナントの進出がほぼ——有力なものがあつたわけでございますが、その後、経済情勢等によりましてなくなる。さらに、当然その再開発をしたときには床の需要がかなりの量ないと——その再開発の良否が決まるわけでございます。それともう一点、地元の権利者でございます方々のやはり地上の上に住みたいという——要するに、ビルとなりますと区分所有になりますので、そういうものじゃなくて、やはり土地の上に我々は住みたいというような大きなものがございました。そういう中で、現在もまだ権利者の方々の合意形成がなされていないというようなのが状況でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） ただいま、道路拡幅に絡む問題とか、また土地、建物の権利問題等で合意が得られず、これがネックになって進展しなかったという御答弁でございますが、この問題の解決策が出ない限り、一步も前進しないんじゃないかなろうかというふうに思っています。西口再開発で御苦労を経験されたと思いますが、その経験の中では、地権者には土地を広く持っている人、また狭い土地を持って、そこで住んだり商いしている人、いろいろ、さまざまであったと思います。今のようにこの道路拡幅問題等の問題が起きますと、広い土地を持っている人は、余裕がありますので、案外と納得が早い。しかし、30坪、50坪の人は、道路で土地がなくなるのじゃないかという、

そういった考え方が先行して、なかなかその合意をしてくれない。それで、説得もきかない。それが行き詰まっていろんな症状が起きてくるという、そういうことを考えるわけです。これは当たり前のことです。ですから、まずそのような不安を取り除く対策を立てることが大切なことじゃなかろうかと思います。それには、県、市、地元の３者で結成された推進協議会の合意の中で、権利者の不安や支障のないような対策をまず優先して考えるべきであろうかと思います。

幸いにして、土地開発公社の定款が改正されまして、今までより土地先行取得の幅が広がったと伺っておりますが、早く前進させるためには、土地やその他の取得可能な物件の先行取得に踏み切ることが解決策の早道じゃないかと思います。西口開発も思ったような先行取得をしてきたわけでございますけれども、20%の減歩で今日まで進んだということは、非常に成功しているんじゃないかというふうに思います。これからもそういったものをクリアして、基本計画に沿った事業が推進できるような考え方を持っていくことが基本じゃないかと思います。

時間も参りましたけれども、この花のまちづくり、そういったものも——やはり日本にはないようなすばらしいまちをつくっていただきたい、世界に誇れるようなまちをつくっていただきたいというふうに考えているわけでございます。この辺に対しては、いろいろとこれから協議会をつくったり、またボランティアの活動をしたりしていくわけでございますけれども、1つお願いしたいのは——またこの問題は委員会等で私は触れてまいりたいと思います。よろしくその節はお願いいたしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 以上で12番議員植木 馨さんの質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

午後2時24分 休憩

午後2時47分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

14番議員永井龍平さん。御登壇願います。

（14番議員永井龍平君登壇）

◎14番（永井龍平君） さきに通告いたしました4点について御質問を申し上げます。

まず第1に、市民福祉サービスの充実についてでございます。小さな第1点は、聴覚障害者のためのサービスについてでございます。市役所の市民課などの窓口で順番待ちをする聴覚障害者や耳の遠くなったお年寄りに職員の呼び出しを振動でキャッチできる無線振動呼び出し機を持たせることを考えてやったらよいと思います。耳の不自由な人は、呼び出されても気がつかずに、後回しにされることが多いので、こうした不便を解消してやったらどうかということでございます。無線振動機は手軽な重さで、必要な人がいつでも使えるように、市民課などの窓口で設置をしてあげたらと考えます。

この振動呼び出し機は、聴覚障害者のための矯正品を開発、製造している東京の企業、ワールドパイオニアが昨年開発、振動呼び出し機「合図くん」として発売、ワンセット1万円ちょっとで、手軽な価格で、岐阜県の可児市などでは6セットを購入して、市民課、保険年金課、税務課、福祉課、高齢福祉課に配備し、聴覚障害者や所用でちょっと窓口を離れる人などに一時的に貸与して、大変な好評を博しているようでございます。また、同市の福祉課では、市内の銀行や大手の私立病院などに対しても、窓口はこの「合図くん」の配備を依頼しているとのことのようでございます。このような考えはいかがでしょうか、まずお伺いいたします。

次に、同じく聴覚障害者や言語障害者、一般の方も利用できる公衆ファクスを市民課、ロビーほかに設置できないかということでもあります。このファクスは、声で意思を伝えることのできない聴覚、言語障害者の通信手段として大変な利器で、この方々にとっては生活していく上でなくてはならないものであります。最近このファクスは聴覚、言語障害者の家庭に少しずつ普及してきているようではありますが、外出先からの連絡手段に大変不便で、困っているようであります。このファクスの設置によって、病院での待ち時間が延びたり、駅に到着したときなどに自宅にすぐ連絡できる等、あらゆる面でこの情報伝達手段の確保によって、これらの方々の社会参加が積極的になることが期待されます。聴覚、言語障害者の方々への福祉サービスと、一般

の方の利用価値のあるこのファクスを市役所、駅、大きな病院等への設置をしていただきたいと思います。いかがでしょうか、お尋ねをいたします。

3点目に、次に目の不自由な人たちに関しての施策でございます。点字の公文書を発行してはどうかということでございます。これは、目の不自由な方に郵送で納税通知書や水道料金の納付書、選挙の入場券などを――視覚障害者のみの世帯を中心に点字文書を希望により送付するもので、郵便の表には発送した担当課名、文書の種類を点字で表記して、公文書自体とその内容を点字した文書を同封して発送してあげるものです。これは、視覚障害者の知る権利やプライバシーの保護をするためにもよい施策であると思います。今では目の不自由な方の家族がその目となっておりますが、これが実現すれば、その不自由さを解消し、本人に直接情報が伝えられ、大変喜ばれるものと思います。この施策についてどのようにお考えですか、お尋ねをいたします。

第4点として、市民サービスの最後の質問でございます。市民が電話やファクスを利用して住民登録などの手続や市の観光、イベントの情報などを24時間いつでも入手できるシステム、テレホン案内、ガイドを実施したらよいと思います。これは、市民が同コールにダイヤルした後、知りたい情報のコード番号を呼び出すと、録音された音声案内が流れる仕組みで、ファクスでも情報を取り出せるものであります。北海道の江別市では、929項目の案内サービスのほかに、外国人観光客のための英語による案内も100項目用意し、またテレホンガイド開始と同時に市民のまちづくりに関する提言、意見をファクスで受け付けるサービスもしており、市民も大いに利用していると聞いております。このような施策もぜひ取り上げていただきたいと思います。この点いかがお考えか、お尋ねをいたします。

次に、第2点目の海を活用した観光施策についてお伺いいたします。当市は、三方を海に囲まれた、温暖な気候と自然環境に恵まれた観光に最高の立地条件であります。幹線道路や観光施設のおくれもあり、観光客の増加は頭打ちの状況のようであります。しかしながら、東京湾横断道、東関東自動車道の早期完成に伴い、また上下水道事業、駅西口整備、橋上駅舎、ウエル

ネスリゾートパーク計画が順調に推進されますと、その波及効果は大いに期待されるところでございます。これらの大事業で財政的にも大変な状況下であることは私も認識しておりますが、これらの事業を農業に例えるならば、現在畑を耕している状態と言えるのではないかと思います。この畑に何を植え、どのように育て収穫するのか、これらの大事業の整備を最大限に生かすためにも、その受け皿づくりを真剣に考えていかなばならないと考えるものでございます。

館山市の観光は、1つの経済の担い手として大事な産業であり、今や海水浴を中心とした夏型から4カ月余りにわたる春型化しつつあり、喜ばしいことであると思いますが、ことしは雨不足とまれに見る寒さから、売り物の花がさっぱりの大変なピンチに見舞われていると聞いており、今後の市の取り組みによっては、せっかくの気候温暖な南房総館山も、楽観できない状況下に置かれていることも認識しなければならないと思います。極端な表現をするならば、春の花はファミリーパークのポピーとフラワーラインの菜の花だけで、市独自で植栽をしている道路沿いの花は見るに無惨な状態でございます。

そこでお尋ねをいたします。第3期基本計画の中にあります花のまちづくりについて、どのように進めていかれるのか、お尋ねをいたします。また、同じく新たな観光資源の掘り起こしとその活用とうたっておりますが、海を活用した観光施設のお考えはありますか、お尋ねをいたします。

次に、館山市市営住宅の建設計画について質問いたします。最近の住宅事情は、生活水準の向上等によって、良質な住宅が求められる傾向になってきております。本市の市営住宅では、真倉地内に建設されました2棟がありますが、この住宅はすばらしい建物であります。この真倉住宅に比べて、ほかの住宅は余りにもお粗末な建物で、特に大賀地内にある住宅は老朽化が激しく、そこに住む入居者には本年、平成8年を目途に建てかえが説明されておりますが、その計画はどのようになっていますか。また、さきに述べましたように、市民は良質な建物の住宅を求めています。真倉の住宅のような建物を建設するお考えはありますか。そして、この建てかえ計画で高齢化

時代に対応した老人向け住宅を建設するお考えはありませんか、お尋ねをいたします。

最後に、危険がいっぱい、その点検と改善、指導についてお伺いをいたします。去る2月10日に北海道古平町の国道229号線の豊浜トンネル内で発生いたしました崩落事故は、全国の人々の心を震撼させるものでありました。その巨大な岩石がトンネルを押しつぶしたさまは、まさに地獄の絵図とも言えるものでした。多くの人々はテレビの前にくぎづけになり、バスや乗用車の中に閉じ込められた人々の救出を今か今かと待ち焦がれたものであります。その後に行われました岩石の爆破は目を覆うもので、何度もニュースで伝えられ、バスの乗客の家族や関係者のみならず、テレビを見ている人たちも、救出がはかどらず、焦りという立ちを覚えたものであります。結果は、御承知のように、バス、乗用車の全員の20名が岩石による圧迫死という不幸な状況でありました。

さて、思うに、本当にこの事故の発生は未然に防止できなかったかという疑問であります。このことは、北海道で起こったから自分たちには関係ないということでは済まされない事柄のように思います。我が市、我が地域では大丈夫なのか、最近毎日のように日本のどこかで起きている地震の多い生活の中で、我が身、我が地域は安全なのかという不安な思いに駆られている人は多くいると思います。岩石の崩落事故、地震だけでなく、私たちの身の回りにもさまざまな危険がいっぱいあると言っても過言ではないのであります。その危険をどのように防いでいくのか、これは政治の力によらなければならないと考えるものであります。常々の用心がなければ、いつ古平町のような事故、災害が起こるかもしれないという危険信号を感じるのは私一人ではありませんまい。当市においても、がけ崩れの危険地域に指定されているところもありますし、災害予防対策については、このトンネル事故を契機に全国的な高まりを見せているこのときにこそ、当市のあらゆる危険箇所を総点検するよい機会ではないかと考えるものでございます。

そこで質問いたします。当市における危険箇所の総点検を実施するお考えはありませんか。もしあれば、どのように行っていくのか、今後の計画をお

聞かせください。また、当市にあります何十カ所かのトンネルの点検はいかがでしょうか。また、道路はどの程度まで地震に耐え得るのかの調査はなされたことがあるのでしょうか。地震が起こったときに最も大事なものは交通網の安全の確保であろうかと思います。そのための対策はふだんから取り組んでいかなければならないし、計画をしておかなければならないものと考えます。その点いかがでしょうか。また、市内を走るガス管については火災の心配、そして水道管については命を支える水の確保、これらの耐震性についての点検はどうなっておりますか、お尋ねをいたします。

以上御質問申し上げましたが、御答弁によって再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の４点についての御質問にお答えいたします。

大きな第１、市民福祉サービスについての第１点目、聴覚障害者の無線振動呼び出し機についての御質問でございますが、聴覚障害者のための無線振動呼び出し機は最近開発されたものと伺っております。機器の利便性や効果等の調査を行いたいと考えております。

第２点目、聴覚等障害者のための公衆ファクスの設置についての御質問でございますが、機器の管理上のことなどもございまして、当面公衆用ファクスの設置は考えておりません。

なお、聴覚等障害者の方につきましては、当市役所玄関の案内係または社会福祉課の窓口にて対応いたします。

第３点目、視覚障害者のための点字文書の発行についての御質問でございますが、点字の扱いになれております障害者は、市内において大変数が少ない状況にございます。また、点訳のできる人材の確保等、多くの問題がありまして、実施は現在のところ考えておりません。

次に、第４点目、市の情報をいつでも入手できるテレホンガイドについての御質問でございますが、家庭などの電話からいつでも利用できるシステム

によります市民サービスは、今後の検討課題の1つと考えております。

大きな第2、海を活用した観光振興施策についての御質問でございますが、花のまちづくりにつきましては、さきに植木議員の御質問でもお答えいたしましたとおり、南国を象徴いたします花の館山のイメージアップを図るため、観光と農業との結びつきをさらに推進するなど、今後検討してまいりたいと考えております。

また、海を活用いたしました観光施設の考え方でございますが、観光定置網や地びき網、水中観光船、マリンスポーツなど、さまざまな活用が行われておりますが、現在進められておりますビーチ利用促進モデル事業の中でも新たな可能性について検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、市営住宅の建設計画についての御質問でございますが、大賀市営住宅につきましては、平成8年度建設を目途といたしまして計画を進めてまいりましたが、敷地が確保されていない状況にありますので、現在計画の見直しを行っているところでございます。

なお、これからの高齢化時代への対応につきましては、今後基本設計の中で検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、危険がいっぱい、その危険箇所の点検と改善、指導についての御質問でございますが、がけ地等危険箇所につきましては、関係機関と年1回点検を実施しております。また、トンネルの調査につきましては、国の指導によりまして現在実施しており、道路の点検については随時実施しているところでございます。また、水道管等のライフラインにつきましては、今後関係事業所とともに耐震性と安全の確保のために努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず第1点の市民サービスについてでございますが、この点につきましては、この呼び出し機がワンセット1万円ちょっと、1万1,000円だそうでございます。御答弁は実に慎重な答弁で、感心もし、また落胆もいたしました。

この不景気で、税収もままならない現実を見据えての御答弁と理解するものでございますけれども、既に実施しております岐阜県の可児市などを十分調査をなさって対処、実現していただきたい。大変こういう方々が喜ぶものと思います。これは強く要望しておきます。よろしくお願いいたします。

2点目の公衆ファクスの設置の問題でございます。御答弁では、そういう方々が玄関の案内係か社会福祉課に申し出ればその対応をするというお答えでございますけれども——それでは、ここでお願いいたします。これらの障害者も含めまして、一般の方も利用しやすいように、玄関のロビーの見やすいところにファクス利用案内を設置していただけたらな、このように思いますけれども、この点いかがでしょう。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） ファクスの利用PRという御質問でございますけれども、聴覚障害者のファクス利用につきましては、先ほど市長が答弁いたしましたとおり、庁内での案内に加えて、さらに、対外的といいますか、福祉団体等を通じまして、申し出により利用できる旨周知を図ってまいりたいというふうに考えております。したがって、案内板の設置につきましては、今後検討をさせていただきたいと思っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 案内板でございます。お金もほとんどかからないですから、どこか見やすいところにちょっと——ファクスを御利用なさる方はどこどこにありますから御案内いたします、そのぐらい、検討じゃなくて、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 確かに案内板程度だったら設置は経費的にはさほどかかりませんが、その表現を、どんな表現をするかということを実は考えているわけです。そういったことで、しばらく検討をさせていただきたいという回答をさせていただきました。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 初めからそう言って——検討というのはやる検討なのか。今のはどういう表現をしたらいいのかという検討だったんですね。ひとつよろしくお願い申し上げます。

次に、3点目でございます。目の不自由な方のための点字の公文書の発行についてでございます。まずお尋ねいたしますが、本市に視覚障害者の方はどのくらいおられますか。そして、これらの方に対しての公文書に関してどのようなサービスを行っておりますか。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現在館山市に視覚障害者は何人いるか、そして点字を読める人等の人数でございますけれども、現在手帳を所持している視覚障害者は200名、そのうち1級該当が88名でございます。それから、点字を読める障害者につきましては、はっきりした把握はされておられませんけれども、数人いるのではないかと。点字をできる人数についても、数人はいるとはないううに考えております。

それから、サービスの関係でございますけれども、視覚障害者への情報提供につきましては、53年から市民によるボランティアの活動によりまして、月1回の広報あるいは議会だより、それから「ルックたてやま」などの内容をテープに吹き込んで、そして声の広報として宅配をしております。そういった利用をされている方は現在40名おいでになります。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） わかりました。

そうすると、点字による公文書の発行というのは、読む人が数名しかいない。また、点字を点訳する人が数名しかいない。点字のできない人でも、今ワープロで、プリンター方式で簡単にできるようでございますけれども、何せ需要がなければ、数人しか点字を読める人がいなければ、この事業はちょっと無理で——当市には無理なような感じがいたします。

しかし、ちょっと問題が出てまいりました。点字を読める人が数名しかいないということ。また、点訳できる人が数名しかいない。これらの方々への、

僕ちょっと思うんですけれども、福祉行政のおくれがあるんじゃないかなと思います。この点いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現在視覚障害者は 200名おりますけれども、年配の方が実は多いわけです。そういったことで、本来は教育機会を提供すればいいんですけれども、本人の考え方を考えますと、なかなか理解を深めていく体制がとれていないのが現状でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 当市では、館山では余り見かけませんが、点字を知らない方が、いわゆる障害者の方が一步外へ出ますと — 例えば千葉とかいろいろ — 盲人用、目の見えない、不自由な方々のための点字の交通標識、あるいは点字の案内板とか、そういったものがあります。したがって、そういったものが本当に頼りになるわけです。そうすると、点字の読める人は — 200人手帳を持っている方があって、数名しかいない。これは大変な問題だと思うんです。ですから、これからは市としまして、この障害者の積極的な社会参加を図るためにも、この点字のできる人の、人材の育成、そして点字を読めるように点字教育、こういったことをしっかりと進めていっていただきたい、このように思います。これは強く要望しておきます。よろしくお願いいたします。

次に、テレホンガイドの件についてでございます。市では広報ビデオがあります。これでは利用者や情報に限度があります。情報ビデオありますね。やっていますね。こういったことでは市民のニーズにこたえられません。ぜひこの件につきましては検討して、できるようにお願いしておきます。

次に、大きな第2点の海を活用した観光施策についてでございます。館山市は三方を海に囲まれた海洋性都市でございます。何ととっても、館山市は海が顔でございます。これを利用してのビーチ利用計画も平成12年に完成の予定であります。これも大いに期待するところでございます。これらの大事業が進められる中で — 私はここで海を利用した、活用した提案をいたした

い、このように思います。

まず、我々人間を含めまして、すべての動物は狩猟本能が旺盛でございます。その性格をうまく利用しての観光事業、イチゴ狩りからブドウ、ナシ、リンゴ、ミカン、クリ、そして魚釣り、潮干狩り、そして最近館山でも、夏のイベントで魚のすくい取り、つかみ取りなどが大いに人気を呼んでおるところでございます。自然のものを狩猟、狩りをして楽しんで食べることで動物の本能を満喫するものはないのであります。これらの観点に立って提案をいたします。

1つには、市では何カ所かのよい磯根があるんです。これらの磯根にトコブシだとかサザエだとかカニだとかシッタカだとか、いろいろございます。そういったものを随時放流、増殖いたしまして、これらをとる磯遊び狩りなどの計画をしたらどうか。大変受けると思います。テレビにすぐ出て、いっぱいお客が来て、間に合わないかもしれない。この計画には、漁協あるいは関係者、いろんな意味で問題があると思いますけれども、漁業関係者、漁協とか、そういった方々と十分に話し合いを進めて、実現に向けて一生懸命やってくださったかなと思いますけれども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 海を活用したそういう観光資源の掘り起こしというようなことの中で、大変すばらしい御意見だと思います。ただ、議員の御質問の中にありましたように、やはり利害というものがそこにはあるわけでございますので、その辺の調整というようなものが大事なんじゃないか。確かにいろんな磯がございますけれども、アサリのような潮干狩りというようなことで、エリアを決めるということもなかなか難しいという部分もございますが、いずれにしても、海を活用したそういう観光資源というようなものは、これから特に滞在型というような方向性を考えていく中では大変必要なもの、こういうふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 1つの提案として申しました。

2つ目の提案でございます。今、釣り人口——釣りの話ばかり私して申しわけない。笑いません、真剣でございますから。3,000万とも4,000万ともいふほど釣りブームでございます。先ほども申し上げましたが、館山市は釣りのメッカ、関東近県から大勢の釣り客が来ております。これは御承知のことと思います。これからのイサギ釣り、5月から8月までどこの船も満杯のようでございます。

そこで提案いたします。お金は余りかけません。お客を呼び、市のPRにもなりますイベントとして、これらの遊漁船や新聞社、関係者等といろいろ協議しながら、年1回か2回でも結構です。市の主催なり共催で釣り大会の開催などいかがかなと思いますけれども、どうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 最近釣りブームということで、テレビなんかで拝見しましても、女性が船に乗って釣りをしている。ところによりましては、釣り甲子園というようなものも開催されているというふうに伺っております。そういう中で——釣り大会といいましても、磯釣りも船釣りもあるわけでございますが、船釣りの場合には、釣り船も館山市に今116隻ほどあるわけでございます。その辺の皆さんと相談といいますか、協議をしまして、やれるという方向であれば検討してみたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） この件の提案につきましては、各スポーツ新聞社が主催で毎年やっているようでございますから、そこに仲間に入れてくれ、そして館山市の共催だというような感じでPRすれば、結構館山市のPRになると思います。よろしくお願いします。

第3の提案でございます。これがメインでございますから。私は、昨年10月に新潟県の上越市に視察に行っていました。視察目的にはなかったんですけども、私のかねてからの懸案でありました海洋フィッシングセンターを視察することができました。シーズンオフでありましたけれども、立派

な施設を見ることができました。

御案内のように、上越市は日本海に面して、11月から3月、4月まで、大雪と季節風で大荒れの天候が毎日のように続く非常に悪い気象条件の土地柄でございます。したがって、フィッシングセンターの営業期間も4月20日から10月いっぱい、基本的にはそのようになっております。大体半年余りしか営業できませんけれども、その営業状況は大変よいと伺いました。その概要をちょっと申し上げます。

名称は上越市海洋フィッシングセンター。設置経過及び目的でございますけれども、上越市は小規模沿岸漁業が中心であり、漁業振興策として、漁港整備、人工魚礁の設置、クルマエビ、アワビ等の放流による資源の増殖を進め、一方、余暇時間の増大、交通体系の整備により余暇活動は活発化、多様化し、この中でも特に遊漁者の増加は——釣りマニアですね——著しく、近県各地から来ている。そして、遊漁船も増加しており、漁業振興の施策に合わせて漁業中高齢者の雇用の確保と遊漁者への啓蒙活動を推進しながら、安全な釣り場での市民と海との触れ合いの場を提供することにより、観光資源の確保を図るために設置をしたようでございます。

事業の概要でございますが、新沿岸漁業構造改善事業であって、事業主体が上越市で、管理主体が直江津漁業協同組合でございます。そして、平成7年度当初の管理委託料が約600万。そして、58年の8月10日にオープン。工事の概要——当初でありますけれども、事業費が約1億6,000万、そして国費が7,600万、これは50%、県費が763万、5%、市費が7,700万、45%でございます。施設の概要でございますけれども、釣り桟橋、長さが185メートル、幅が2.5メートルから4.5メートル。そして、そこに附属している磯の遊び場というのがございます、サンビーチという名称で。2,350平米。魚礁が157個あって、網囲い——これはどういうことかと申しますと、網で桟橋の周りをずっと囲いまして、定置網でとれた魚をそこへ生きたまま放流して、魚が逃げないようにしております。そういう概要でございます。ナイターができるようになって、6基つけてあって、そしてほかの設備が——説明できませんから——あります。

施設の運営でございますけれども、先ほど申しました4月20日から10月31日、ナイター、そして入場料が100円、貸しざお100円、釣りえさ100円、さおとえさは持ってきちゃいけない、そこで買いなさい、こういうことです。問題の利用実績でございますけれども、シーズン平均の営業日170日、そしてシーズン平均の利用者の合計が3万2,000人、半年で、そして利用者1日平均が大体170人、一番多くお客が来たというのはオープン時の2,500人であったそうです。そして、売り上げですか、全部の。大体800万ぐらい。ちなみに、ちょっと耳にしたんですけれども、この水中観光船、年間、オールシーズンやれるようですけれども、大体3万ちょっとの方々が利用しているようです。

ですから、以上長々と説明いたしましたけれども、年々遊漁者が多くなっている。そして、館山市は名勝鏡ヶ浦のいわれのとおり波穏やかで、フィッシングの条件を備え、オールシーズン運営が可能な、絶好の条件の整った海だと私は思うんです。このすばらしい海を最大限に活用しない手はない、このように思うんです。このように、館山の本当に海にかなったこういうフィッシングセンターなどの私の提案に対してどのようにお考え、お思いになるのか。いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 現在館山市では、御承知のようにビーチ利用促進モデル事業をやっているわけですが、今のお話の中で、180メートルの釣り桟橋というようなお話がございましたけれども、中央突堤の真ん中でも200メートルの平均25メートル、約5,000平米ぐらいのエリアがあるわけです。また、それぞれの側の、わきの突堤についても190メートルぐらいあるわけでございます。そういう中で、今御指摘のように、館山市としては、そういう海を利用した集客施設ということにつきましては、今の問題につきましては、非常に魅力のある企画だと私も考えております。したがって、その場所、位置そのものはともかくといたしまして、館山湾全体をにらんでいろいろ考えてまいりたいと思いますけれども、そういうような釣り堀とか、そういうものを視野に入れて、その方向で検討していくつもりでお

ります。よろしくお願いします。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 第4の提案だったんですけれども、お答えが出てきちゃったんです。これが、フィッシングセンターがだめなら、じゃ、ビーチ利用の突堤バースを使ってつくりなさいということだったんですけども、意思が通じた。実現しそうでございます。県に強く要望してください。

市民によく言われます、館山は何もないと。鴨川にみんな持っていかれちゃう。どこどこにみんな持っていかれちゃう。何かなければいけません。いろいろ障害は——何か新しい大きなことをやるにはやっぱり障害がつきものでございます。それをクリアして頑張っていかなきゃいけない、このように私たち議員も認識して頑張っていきたい、このように思います。

それでは、市営住宅の件につきまして質問いたします。時間がありません。まず第1点は、御答弁をもう少し具体的に説明願いたいと思います。実施の時期はどうなんだ。規模はどのくらいなんですか。どのような建物を考えておりますか。

それと、この大賀地区は、海上自衛隊のヘリコプターの騒音、さらに小学生等の通学、お年寄りなどのショッピングあるいは病院の通院等、住まいとしての利便性を考えましたら、決して良好な場所とは私思えないんです。どこかほかのいいところに建てていただきたいな、このように思います。この点いかがでしょう。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） まず第1点の時期でございますが、これは先ほど市長から答弁申し上げましたように、入居者の自然減というのを期待しております、現在61戸中26戸転居してございます。ほかの住宅があいた場合にも、やはりそのところにお話をして、転居していただくような話をしておるんですが、やはり入居しておる方は非常に老人が多いものですから、家賃等の問題がございまして、なかなかスムーズにいかないということでございます。それで、現在考えておりますのは、平成8年、9年度で入居者の調整を図りながら、平成10年度にはマスタープラン——先ほど申し上げましたよ

うに、規模だとか、あるいは建物の構造、老人の住宅としてのもの——これは、公営住宅法の中でそういう老人、障害者の住宅というのが義務づけられてございますので、先ほど議員さんが申されましたような真倉市営住宅以上のグレードの高いものが求められておりますので、そういうものになろうかと思ひます。それで、11年度、12年度あたりに設計をいたし、着工に入りたいというふうに考えております。

それともう一点、住宅環境の問題だと思ひますが、現在あそこは第1種住居専用になっておりまして、非常に住宅地としては私どもは適地であるというふうに考えております。また、その敷地の面積は約 8,500平米でございます。これを市街地の住宅環境のいい、学校だとか、そういうものに近いところに持ってきますと、やはり土地の購入、そういうものに合わせまして低廉な家賃でなくなるというおそれもありますので、私どもではそういう転居を待った上であその場所に建築をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） わかりました。

じゃ、最後に危険箇所の点検についての質問でございます。まず、トンネルの調査についてでございますけれども、今までどのくらいの箇所を実施したのか、その検査方法と、その結果はどうなんだろうかということと、水道管等の検査はどのように進めてまいるのか、まずお伺いいたしまして——時間がございません。

私たちの身の回りには、地震、火災、岩石の崩落のような大きな災害はもちろんあってはなりません。もしあっても、それを最小限に防止するための日ごろの点検と改善には万全を尽くさなきゃいけない、このように思ひます。そして、私たちのまち、地域にも危険がいっぱいあります。私は数人の市民とともに幾つかの危険箇所を吸い上げてみました。それを幾つか拾ってみますと、まず国道、県道に多く見られます路側帯と道路との段差、市道に突き出た庭木や生け垣、市道1049号線沿いのふたなしの排水路、市道 175号沿いにある——これはちょっと信じられませんが、小山の中腹にいつ市道

に落下してもおかしくない1年以上も放置してある2台の重機、真下は市道です。そして、館山小学校の100名の学童が利用しております通学路の未整備等、まだまだたくさんありますけれども、これらは小さな危険かもしれません。しかし、一步間違えば、人間の生命をも奪う危険をはらんでいると思います。古平町の崩落事故では、2時間前にトラックの運転手がトンネル内の土砂等の落下の異状を発見、通報したが、時既に遅く、あのような大事故になりました。

そこで御質問します。さきに……

(何事か呼ぶ者あり)

◎14番(永井龍平君) やめましょう。

いずれにしても、そのような危ないところはいっぱいありますんで、その総点検を今後とも一生懸命やっていってください。よろしくお願いします。

以上です。済みません、御迷惑をかけまして。

◎議長(辻田 実君) 三平建設部長。

◎建設部長(三平孝司君) トンネルの箇所数でございますが、市内では市道が7カ所、国県道が合わせて5カ所でございます。点検といたしましては、トンネルの坑口部——これは起点及び終点の部分、これが主体でございます、目視による調査でございます。これは1次調査ということで、第1次で目視で調査をいたしまして、その次に2次調査ということで、これは専門業者に見てもらうというようなことでございます。

以上でございます。

◎議長(辻田 実君) 以上で14番議員永井龍平さんの質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

会議日程の変更

◎議長(辻田 実君) この際、会議日程についてお諮りいたします。

明8日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明8日は休会いたしたいと思います。これに御異

議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、明8日の会議日程は変更され、休会と決しました。

散 会 午後3時40分

◎議長(辻田 実君) 本日の会議はこれにて散会いたします。

なお、明8日から10日は議案調査のため休会、次会は3月11日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは3月8日正午、平成8年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月11日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問